海外經濟情報 昭和7年 第5号

E1.2.0.XI-R1

文書課長

公信案

文書課發送 昭和七年八月參日 發送濟

主管 歐米局長 主任 第一課 (起草 昭和七年七月二十八日)

歐一 機密 普通 第二三〇〇號 昭和七年七月廿日附 附屬書 通

受信人名 大藏省 濱田理財局長 / 南工商 川久保商務局長

件名 新公債發行トソヴイエト聯邦ノ財政事情 / 發信人名 招島昭米局長

本件ニ關シ今般在ソヴイエト聯邦田大使ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ付爲御參考右茲ニ送付ス

(昭和七年六月二十三日附在露大使館來電第三三七號寫ノ附屬書類)

別紙

公信ノ案

外務省

(甲號用紙)

30 29

通商局

在ソヴイエト聯邦日本帝國大使館

E1.2.0.XI-R1

歐米局 第一課

公第二八七號

昭和七年七月三十日

在ソヴイエト聯邦
特命全權大使廣田弘毅

外務大臣伯爵内田康哉殿

七月一日現在通貨總額ニ關シ報告件

最近ニ於ケル蘇聯邦通貨總額ニ關シテハ七月一日附公第二五一號ヲ以テ報告ノ通ナルカ七月二日ノエコノミーチエスカヤ、ジーズニヨリ同月一日現在ノ國立銀行ノ發行バランストレラ資産ノ部

單位「チェルヴォーネツ」

昭和七年九月廿日 接受

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一、金貨及金塊	六七、八四八、一二三
二、其他ノ貴金屬	一、八五四、〇九五
三、外國貨幣	三、五三六、〇六九
四、外國手形	一一四〇、四六二
五、短期貸付手形	二三五、一二一、二五一
計	二九八、五〇〇、〇〇〇
負債ノ部	
一、銀行券發行額	二九二、五四五、四三二
二、發行余力	五、九五四、五六八
計	二九八、五〇〇、〇〇〇

ナル旨公表セラレタル力更ニ同月二十七日ノ同紙ヲ以テ同月一日現在ノ財務人民委員部ノ發行「バランス」トシテ

資産ノ部　　單位留

一、旧紙幣ノ回收	三六、七七六、三四四、四〇
二、交換基金及外貨	二、八七〇、五五六、八八五、六五
三、前年度迄ノ豫算上ノ支出	三三〇、一二三、九二一、一五
四、本年度銀及銅豫算支出	二四、一六七、五五〇、七二
計	三、二五七、六二四、六八一、九二
負債ノ部	
一、紙幣(國庫證券發行高)	二、九二二、〇一四、五六六、〇〇
二、銀貨及白銅貨	二八九、四七八、三〇〇、九五
三、銅貨	七、七〇三、七一八、六三
四、青銅貨	三八、四二八、〇九六、三四
計	三、二五七、六二四、六八一、九二

ナル旨發表セラレタルニ付七月一日現在ノ通貨總額ハ六十億八千三百七萬九千一留九十二留ニシテ六月一日現在高

E-0286

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

五十七億八千六百四十七萬九千七百十六留六十一哥ニ比較シテ三億九千六百五十九萬九千二百八十五留三十一哥ヲ增加セルカ右ハ主トシテ農産品ノ買付期ニ入リタル爲資金ノ需要增加セルニヨルモノナリ

尚七月一日ノ國立銀行発行ヨリシタルカ六月一日現在ニ比較シテ金貨及金塊ニ於テ二千七百六十七萬四千百七十留及外國貨幣ニ於テ四百三十一萬三千百四十留ノ增加ヲ示シ居ルニトハ注目スヘキ現象ナリ

右報告ス

E-0286

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

E1.2.0.XI-R1

欧米局

第二課

公第七七號

昭和七年九月二十日

在オデッサ

領事　田中文一

外務大臣伯爵　内田康哉殿

「ソ」聯邦國民經濟ノ大勢ニ關スル件

本件ニ關シ政府當局ノ公表及新聞雜誌等ノ記事ヲ綜合シ別紙ノ通リ茲ニ報告申進ス

在オデッサ日本帝國領事

各局課長
昭和七年拾月拾八日接受

別紙添付

昭和七年九月

「ソ」聯邦國民經濟ノ大勢

（第二期及上半期）

在オデッサ領事館

在オデッサ日本領事館

E-0286

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

目次

第一、農業　頁
一、作付狀況　五
二、農業稅　七
三、雜件　一九
(一)馬匹保護　二六
(二)「ウォルガ」河東岸地方ノ旱害防止方策　二七
(三)MTO　二八
第二、工業生產　三一

在オデッサ日本領事館

D

一、重工業　三六
(一)石炭　四三
(二)石油　五一
(三)泥炭採收及燃料ノ「バランス」　五五
(四)製鐵　五六
(五)有色金屬　六六
銅ー鉛ー亞鉛ーアルミニューム　七二
(六)機械製造工業　八三
トラクター及自動車ー交通運輸機械ー
農業機械ー電氣機械　八六
(七)化學工業
(八)製紙業

在オデッサ日本領事館

D

E-0286

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(九) 發電所　八九
二、林業　九三
三、輕工業　九八
四、食品工業　一〇〇
第三、運輸　一〇四
一、鐵道運輸　一〇五
「ドンバス」ー「モスクワ」幹線ノ新設　一一四
二、河川運輸　一一六
三、海運　一一八
第四、供給及貿易　一二二
一、「コルホズ」商業　一二二

在オデッサ日本領事館

二、村落ニ對スル日用品ノ供給　一三七
三、外國貿易ノ不振　一四一
第五、財政　一四七
一、財務　一四七
第一期財政成績ー第二期收納成績ー
關稅ノ改正　一六〇
二、國債　一六七
國債ト工業投資ー第三回「五年計畫ヲ四年ニ」
內國公債ー昨年ノ國債應募成績　一七〇
三、通貨
四、長期投資特殊銀行ノ設置
（終）

在オデッサ日本領事館

E-0286

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

「ソ」聯邦國民經濟ノ大勢

本年第一期ノ國民經濟ハ工業ニ於テハ昨年十二月ノ好況ニ比シ些少ノ生產減退アリタルモ前年同期ヨリモ著シク好成績ニシテ國營工業全體ノ總生產額ハ二割增ニテ採炭高モ「プラン」ノ八割臺、製鐵モ八割近ク昨年第一期ニ最モ悲況ニ在リシ鐵道運輸モ本年ハ大ニ改善セラレ運輸高モ「プラン」ノ八割ニ及ヒ前年同期ニ比シ二六%ノ增加ヲ示シ列車運轉方面ニ於テモ相當ノ發達ヲ遂ケタリ

然ルニ農業方面ニ於テハ昨秋ノ農產物買上ノ困難ニ次テ春期播種用ノ種不足シ播種準備上容易ナラサル困難招來ノ形勢ヲ示シ食料品日

用品ノ供給ハ一層惡化セリ

第二期ニ於ケル大開墾ハ春期作付「カムペイン」ニシテ當局ハ種子勞働力及勞働心ヲ有セサル身心共ニ疲弊セル農民ヲシテ豫定計畫ノ作付ヲナサシメント努力シタルカ其結果ハ作付面積ハ昨年ニ及ハス殊ニ「ウクライナ」ニ於テハ著シキ計畫遂行不能ヲ示シ茲ニ於テ農村指導ノ過誤ニ付叫ハレ都市住民ニ對スル食料品供給ノ對策トシテ五月末實施セラレタル所謂社會主義制度ノ新經濟政策ナル「コルホズ」商業ノ許可ト共ニ朝野ノ視聽ハ農村ニ注カルヽニ至リ爲メニ工業及勞働者ニ對スル注意モ少シク薄ラキ全力ヲ盡シテ農產物ノ收穫及買上ニ有效ノ成績ヲ收メントシツヽアリ

工業方面ニ於テ建設ハ建設材料ノ不足其他ノ爲メニ完成期延引シ生

E-0286

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

産ハ五月銑鐵ノ製造増加セル外三月ヨリ四月ニ入リ減少シ五月ニハ更ニ減退シ六月ハ期末ノコトヽテ例ニ依リ重工業ニ些少ノ反増アリタルモ其退勢羅横シ採炭高ハ「プラン」ノ七割以下ニ下リ銑鐵モ四月ノ程度ニ下リ鋼ハ逐月減産、石油採收量サヘ從來ノ九五%以上ノモノカ九〇%近クニ降下シ林業、輕工業、食品工業共同樣ニ逐月生産減退シツヽアリ

而シテ鐵道運輸モ農工業同樣ニ振ハス六月ノ輸送高ハ昨年六月ノ高ヨリモ更ニ減少セリ

斯ノ如キ情勢ハ財政上ニモ現ハレ第二期ニハ收入ノ最大科目ニシテ國營工業ノ大部分カ負擔スル取扱高稅ノ收入モ近年初メテ豫定ニ不足セリ

人民個人ノ狀態ニ付テハ重工業勞働者ノ勞銀ハ前年同期ヨリ二割餘ノ増加アリタルカ食料日用品ノ供給好カラス物價ハ勞銀以上ニ騰貴シ稅金以外ノ公債其他ノ據出金ノ負擔額ハ増加シ而モ勞銀ノ支拂遲滯シ十年前ノ大飢饉當時ニモ劣ルト云フ

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一、農業

昨年ハ「ウオルガ」以東ノ地方及「ウクライナ」南部ニ旱害アリ穀物ノ收穫豫想外ニ不良ナリシ處政府ノ穀物買付計畫ハ農家ノ社會化ノ數的成功ニ酔ヒ過大ニシテ強制力ヲ以テ之ヲ徵收シ「ウクライナ」ノ知キハ買付ノ成績不充分ナリトシ重ネ重ネ强行シ殆ント詠求スル程度ニ至リタルカ三月一日迄ニ「プラン」ノ八六%ノ買上ヲナシ得タルニ過キサリキ其結果ハ農民ヲ苦シメ彼等ヲシテ勞作ノ結果ニ失望セシメ目前ノ困難ノ爲メニ倉庫ヲ破壞スルカ如キ暴擧ニ出テシ

メ從テ種子ノ貯藏ニモ注意セス亡失腐敗等アリ春期播種ニ當リ種子ハ動員シテモ尙所要ノ七割臺ニ達セス漸ク聯邦中央政府ヨリ種子ノ補給、食糧、馬匹其他ノ動力ヲ交付シテ兎ニ角播種ヲ終リタルカ七月一日現在ノ全國作付面積ハ九千六百六十七萬「ヘクタル」ニシテ「プラン」ノ九四、五%、昨年ニ比シ〇、四%少ナシ

就中農業最盛ナル「ウクライナ」ニ於テハ穀物ノ作付「プラン」ノ九二%ニシテ「キエフ」「ウインニツア」「モルダビヤ」等西部一帶ノ地味肥沃從來最モ農耕ノ進歩セル地方ハ成績甚タ不良ニシテ六七割ナリ之カ爲メ「ウクライナ」共產黨ハ六月ヨリ七月ニ掛ケ各州及中央ニ協議會ヲ開キ特ニ農業問題ノミヲ審議シ從來工業ノ發展ニ專念シ農事ヲ閑却シ村落ニ割スル指導ノ不足等ノ過誤ヲ認メ之カ對

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

策ヲ講シ農村ニ對スル注意指導ヲ强化スルコトヽナリ所謂社會主義的建設ニ於ケル新經濟政策ヲトルルニ至レリ

右政策ノ一部ハ「コルホズ」商業ノ發展ヲ圖リ都市住民ニ對スル食料品供給ノ一部ヲ「コルホズ」、「コルホズ」員、個人農家ノ特約及買付計畫ニ依ル穀物其他農產物ノ義務的納入量ヲ此際減少シテ農民ノ手持ヲ多クシテ以テ――セシメントセルモノナリ

今ヤ當局ノ注意ハ收穫ニ集中セラレツヽアリ

一、作付狀況

本年春期播種「カムペイン」ニ於テ種子ノ不足シ「ウクライナ」ノ

如キ三月末六七九%ヲ募集シタルニ過キス其不足分ハ聯邦中央政府ヨリ補助ヲ受ケタリ

播種ノ進行狀況ニ付テハ本年五月一日現在全國ノ作付地積ハ千四百九十七萬六千「ヘクタル」、「プラン」ノ一四、六%ナルカ一九三一年同日現在ノ千三百六十五萬二千百「ヘクタル」、「プラン」ノ一三、七%ニ比スレハ幾分好成績ナルモ右ハ社會化部門ニ於テ增加シ個人農家ニ於テ五十八萬五千「ヘクタル」少ナク「ソフホズ」中「ゼルノトレスト」ノ作付地積カ右期日ニ於テ本年ハ十六萬三千「ヘクタル」減少セルコトハ注意スヘキコトナリ

地方別ニ看ルニ南方主要農耕地中北高架索地方ハ「プラン」ノ三四、五%ニシテ昨年ヨリ極少乍ラ好キモ「ウクライナ」ハ三百九十二萬

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一千「ヘクタル」、「ブラン」ノ二〇、五％ニシテ昨年ノ四百六十萬六千「ヘクタル」、二四％ヨリ劣レリ

五月三十一日ニ於ケル狀況ハ全聯邦ニテ七千五百十三萬二千「ヘクタル」、「ブラン」ノ七、四％ヲ作付シ昨年六月一日ノ七千五百四十萬「ヘクタル」、七五、四％ヨリ幾分減少セリ

社會部門別ニ看レハ社會化部門ハ一體ニ昨年ヨリ增加セルモMTCノ力ヲ藉ラサル「コルホズ」ハ二千四百九十二萬七千「ヘクタル」「ブラン」ノ七一、二％、個人農家ハ千貳八十四萬八千「ヘクタル」「ブラン」ノ五三、九％ヲ作付セリ

地方別ニ付テハ「ウオルガ」中流地方、「クリミヤ」「メゲスタン」ハ「ブラン」以上ニ作付シタルカ南方主要農耕地方ハ左ノ成績ナリ

三二年五月末日　三一年六月一日

ウクライナ	一二、七九五	六七、〇％
北高架索	七、五四八	八七、五
	一五、八七八	八二、七
	七、九〇七	九一、四

而シテ作物ニ付テハ棉花ハ五月二十五日二百三十四萬八千「ヘクタル」、「ブラン」ノ九五、五％ヲ以テ作付ヲ終リ昨年ヨリ約二十萬「ヘクタル」ヲ增加シ其他ノ工業原料モ昨年ヨリハ增植セリ

春期作付モ終了ト見做スヘキ七月一日ノ成績ニ依レハ本年作付總地積ハ九千六百六十七萬六千「ヘクタル」ニシテ「ブラン」ノ九四、五％、昨年ニ比シ〇、四％少ナシ

之ヲ社會部門別ニ見レハ左ノ如シ（單位千「ヘクタル」）

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

	一九三二年	對プラン%	一九三一年
ソフホズ	一、〇二一、八	一〇五、五	八八〇四二
コルホズ	六六七〇五二	九五、三	五八八九三七
個人農家	一八九四九二	八六、一	二九三三四三
計	九六六七六二	九四、五	九七〇三二二

而シテ社會化部門ノ内容ニ付六月三十日現在ノ狀況左ノ如シ

	一九三二年		一九三一年
ソフホズ	一〇七七六	一〇二%九	八五〇六
内 ゼルノソフホズ	五四七一	九七〇	
養畜ソフホズ	二七九四	九七八	
工業原料ソフホズ	一〇七五	八一五	

在オデッサ日本領事館

D

11

コルホズ	六六八七五	九五、五	五八五九二
内 MTC	三五二九六	一〇〇、八	二〇二六六
其他	三一五七六	九〇、二	

卸チMTCノ力ヲ藉ラサル「コルホズ」及工業原料栽培「ソフホズ」ハ一割以上ノ豫定計畫遂行不能ナリ

七月一日現在狀況ノ地方別ニ付テハ「プラン」ヲ超過シタル共和國及州ハ「モスクワ」、「ウオルガ」中流、北高架索、「ダゲスタン」、「クリミヤ」、高架索三共和國ナリ最モ成績ノ不良ナルハ極東（七五%）ニシテ「ウクライナ」ハ八八、二%ナリ重ナル農耕地方ノ作付地積左ノ如シ（單位千「ヘクタール」）

作付地積	對プラン%	對前年%

在オデッサ日本領事館

D

12

E-0286

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

州	コルホズ	個人農家	計	對プラン%
ウクライナ	一六、八五四	八八、二	九一、〇	
北高架索	八、六六八	一〇〇、四	一〇五、八	
ウオルガ下流	五、九四五	九六、七	一〇〇、四	
同　中流	七、五八三	一〇一、一	一〇三、七	
中央黑土地方	七、二一四	九七、五	一〇二、六	
西部西伯利	六、六六〇	八四、八	八九、五	

△「ウクライナ」ノ作付狀況

「ウクライナ」ノ作付狀況ハ頗ル不成績ナルカ六月二十日農民地各州狀況左ノ如シ（單位千「ヘクタール」）

在オデッサ日本領事館

キエフ	一、六四四	九三六	二、五八〇	六四、一
ウインニツア	一、三一七	七七六	二、〇九三	七九、一
ハリコフ	二、七六二	六一〇	三、三七二	八八、一
ドネプロペトロフスク	二、四五三	二三四	二、六八七	一〇一、一
オデッサ	二、〇六八	一九〇	二、二五八	一〇四、四
モルダビヤ	一九五	八四	二七九	七八、六
ドネツ	八二八	四一	八六九	九三、四
計	一一、二六八	二、八七一	一四、一三九	八五、二
ソチホズ	一	一	二、三三七	九八、六
合計			一六、三七六	八六、九

在オデッサ日本領事館

E-0286

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

右ノ如ク「ウクライナ」ノ西部及西北部ハ殊ニ成績不良ナリ

作物ノ内耐寒ハ九二、三%、棉花一〇〇、四%、麻八四、一%、大麻八九、五%、大豆九一、八%、「マホルカ」七〇、七%、煙草七七、五%、馬鈴薯六二、六%、風類九六、一%、野菜一〇五、二%、「シロス」作物七〇、二%ナリ

全國作付地積ノ作物別ニ付七月一日現在ヲ示セハ左ノ如シ（單位千「ヘクタール」）

	一九三二年七月一日現在		一九三一年六月二十日	
	地積	對プラン%	地積	對プラン%
小麦	三二、八一九、三	八七、一	二五、二八〇	九〇、三
燕麦	一五、六五五、〇	八五、九	一六、六〇九	九二、三

大麦	六、五〇一、〇	九一、七	六、三八三	九一、二
玉蜀黍	三、八六〇、八	八六、二	三、九一〇	七八、二
黍	七四八、四二	一七六、七		一〇六、三
蕎麦	一、六二二、〇	七七、二	一、四六六	七三、三
豆類	二〇一、四四	八二、九	二、四一七	一〇〇、七
ライカ	一、一五八、二	九五、八		
●穀物計	六一、八七五、八	九二、〇		
棉花	二、三四八、二	九五、五	二、五一二	一〇九、二
亜麻	三、一五二、一	九六、一	二、九一三	一一六、五
麻	九三三、二	九一、一	八六九	八九、三
日向葵	三三〇六〇	一〇七、四	四、五四八	九二、八

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

甜菜	一、六三五	九七、九	一、四九四	一〇四、六	
煙草	九四、三	八一、三	六二	六八、九	
マホルカ煙草	一四一、一	八七、一	七三	九一、三	
チコリイ	二〇、九	一〇〇、〇			
辛子	三一九、四	八九、三			
大豆	二九九、八	八〇、〇			
●工業用作物計	一五〇五三、九	九八、八			
野菜	二、二三五、一	一〇三、〇	一、九五二	一〇八、四	
瓜類	八六八、四	九三、七			
馬鈴薯	六、一一一、四	九〇、六	五七三一	八四、九	
シロス	一、六五五、五	一三九、六			

在オデッサ日本領事館

牧草	八、二五〇、二	一〇四、一		
球根類	七二五、九	八五、二		

右ノ如ク穀物ノ作付ハ八八%ノ不足ニシテ之ヲ前年六月二十日現在ニ比スルモ絶對ニ減少セリ工業原料作物ニ於テハ棉花ハ前年ヨリ減少セルモ其他ハ増加シ野菜類モ増加セリ

右ニ掲ケタル一九三一年ノ統計ハ農務省ノ公表ニ依ル概算ナルカ本年統計數字ニハ一九三一年ノ作付地積ヲ棉花二、一三七〇〇〇、亜麻二、三三八〇〇〇、甜菜一、六四九〇〇〇「ヘクタル」トアリテ棉花及亜麻ハ六月二十日現在ヨリ減少セルカ右ハ多分一部ハ枯死シ收穫當時ノ反別ナランカ

右ノ内煙草ノ作付地積ニ關シ八月初開催セル全聯邦煙草協議會ニ於

在オデッサ日本領事館

E-0286

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

テ公表セル調査ニ依レハ本年ノ煙草作付地積ハ全聯邦ニテ九萬二千「ヘクタル」（昨年ハ八萬八千）「マホルカ」ハ十四萬三千「ヘクタル」（昨年ハ八萬一千）ナリ

二、農業税

單一農業税法ハ農業政策ノ最モ好ク現ハレタルモノナルカ本年ノ本税法ノ發布ハ一九三〇年ノ二月二十三日付、昨年ノ三月二十九日付ヨリ遡レテ五月四日付ナリ本税法中昨年ト相異スル分ヲ摘記スレハ左ノ如シ

● 「コルホズ」ニ對スル課税

一、税率ハ「コンムン」「アルテリ」ニ對シテハ昨年ノ總收入一留ニ付三哥ヲ三哥半ニ、共同耕作組合ニ對シテハ四哥ヨリ五哥ニ引上ケ

二、徵力ナル「コルホズ」ニ對スル免税點ハ昨年ハ一人ニ付六十留トセルカ今年ハ之カ減免ハ「ライオン」租税委員會ノ決定ニ依ラシメ

三、作付地增加法トシテノ免税ハ昨年ハ前年ニ比シテ增加セル分トセルカ今年ハ之ヲ除キ

四、養畜發展法トシテノ免税地ニ今年ハ更ニ牧草及球根ノ種子作付地ヲ加ヘ

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

五、工業用作物及新作物發展ノ爲メノ免稅地ニ本年ハ前年ニ比シ增加セル分及新地ニ於ケル右作付地ヲ加ヘ「ケナフ」「ケンヅイリラミ」等新作物栽培地ハ全部之ヲ加ヘ

六、政府ニ對スル納入ノ義務ヲ適時ニ履行セルモノハ昨年ハ稅額ノ一〇%ノ割引アリタルニ今年ハ二五%トシ

七、「コルホズ」商業ニ依ル所得ヲ免稅スルコトニ新ニ規定シタリ

●「コルホズ」員ニ對スル課稅

一、「コルホズ」員ノ社會化セラレサル部分ノ所得ニ對スル稅率ハ計算方法ヲ改メ

二、本年ハ家內ニ勞働不能者二人アルトキハ五%、三人ハ一〇%、四人以上ハ一五%ノ割引ヲ定メ

三、資力弱少者ハ昨年ハ前年免稅セラレタルモノハ全額ヲ免スル規定ナリシカ本年ハ「コルホズ」總會ニ於テ其資力如何ヲ審議シ之ヲ「ライオン」租稅委員會ニ於テ決定シ減免稅スルコトニ改正シ

四、共有ニアラサル家畜ニ對スル課稅ハ昨年ハ個人農家ニ適用スル稅率ノ半ヲ課シタルカ本年ハ牧畜奬勵ノ爲メ之ヲ全免シ

五、國營工業及事業ニ契約ニ依リ出稼セル者ノ所得ハ免稅スルコトヲ新ニ設定セリ

●個人農家ニ對スル課稅

一、所得ノ標準ニ關シ本年ハ昨年ニ比シ土地ノ所得率ヲ草刈地及煙草栽培地ノ外引上ケ例ヘハ作付地ハ一「ヘクタル」ニ付一留（ウタライナ）乃至九留（ロシヤ）、葡萄畑及果實畑ハ五割乃至七割

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ヲ引上ケタリ聯邦共和國トシテハ「ウクライナ」ノ畑地所得ハ僅ニ一留ヲ引上ケ昨年二留ノ差アリタル白露ト同様ニシ家畜ノ所得ハ「ウクライナ」ノ牛一頭ニ付二留ヲ引下ケタル外他ハ据置ナリ

右ハ「ウクライナ」ノ農業不振ノ對策ナリ

二、「コルホズ」商業ニ依ル所得ハ免税セラレ

三、税率ハ昨年ハ家族一人ニ付各二十留ヲ控除シ其殘部ノ二十五留ハ國分以上ハ「コルホズ」員ノ場合ト同一ニ逓増的ニ増加課税セルカ本年ハ百留以下ノ所得ハ税額ヲ七留トシ其以上ノ所得ニ付テハ一定税額ニ逓増的歩合ヲ加ヘタルモノトセリ

四、作付地増加法トシテ特典ハ昨年ハ前年ニ比シ増加セル分ヲ免税セルカ今年ハ休閑地ニ作付セル分ノミニ限リ

五、新作物作付地ハ免税スルコト、シ

六、本年ハ社會化部門ノ企業及機關ニ出稼セル者ニ對スル特典トシテ昨年通リ炭坑出稼人ノ外(一)木材伐採、筏流及泥炭採掘賃銀ハ免税シ(二)契約ニ依リ國營企業及事業ニ從事スル者ノ賃銀ハ課税上他ノ農業以外ノ收入ノ半額ヲ所得トシ(三)砂金掘、松實、層物、古金及繭脂蒐集ニ依ル所得ハ之ヲ國家又ハ組合機關ニ賣渡ス場合ニ免税スルコトヽセリ

● 富農ニ對スル課税

七、税率ハ計算方式ヲ「コルホズ」員及個人農家ノ夫ト同様ニ變更シタリ

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

當局ノ報道ニ依レハ村落住民ノ收入ハ一九三〇年百三十二億留、一九三一年百九十一億留ニシテ本年ハ二百二十四億留ナルモ單一農業稅ハ格別增加ナシト云ヒ居ルカ本年豫算ニ依レハ單一農業稅收入ハ昨年ノ概算五億一千八百五十萬留ニ對シ本年ハ六億留ナリ

右本年稅法中特殊ノ點ハ(一)「コルホズ」商業許可ニ伴フ免稅ト(二)特約及賈付計畫ニ依ル政府ニ對スル納入義務履行ヲ特ニ重視セルコト(三)稅ノ減免ニ「コルホズ」總會卽チ農民ノ參加ヲ許容セルコト等トス

在オデッサ日本領事館

E-0286

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三、雜件

(一) 馬匹保護

昨年九月二日付閣令ヲ以テ本期馬匹ノ接種三百萬頭以上トスル旨各「コルホズ」ニ義務ヲ負ハシメタルカ其成績ハ不良ニシテ五月二十日現在ニテ十七萬七千頭即チ豫定ノ六%ヲ接種セルノミニシテ地方ニ依リテハ「カザクスタン」ノ如キ主タル產馬地ニ於テ〇、六%、「ウラル」一%、「ウクライナ」、「レニングラド」州二%、「タタリヤ」、「キルギジヤ」四%ト云フ狀況ナリ

一方農村ノ馬匹ハ飼料ノ不足ニテ斃死スルモノ多ク又農民カ故意ニ之ヲ殺スモノアリテ春蒔時期ニ甚タシキ不足ヲ見タルヲ以テ黨本部及政府ハ五月二十七日付決定ヲ以テ馬匹保護及其發達ニ付黨員及「ソウエト」機關ニ對シ注意スル處アリタリ

(二) 「ウオルガ」東岸地方ノ旱害防止方策

內閣及黨本部ハ五月二十二日付決定ヲ以テ「ウオルガ」河東岸地方ノ旱害防止及小麥五百萬噸ヲ得ヘキ灌漑地造設ノ爲メ「カムイシノ」地方（北方「キネリーサマルカ」邊ノ「ウオルガ」中流及南「カムイシノ」迄ノ下流一圓）ニ二十三箇水力發電所ヲ一九三七年迄ニ建設シ其堰堤ヲ利用シ機械ニ依リ四百乃至四百三十萬「ヘクタル

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

」ノ畑地ヲ灌漑スルヲ必要トシ右發電所ノ能力ハ百八十乃至二百萬「キロワット」トシ之カ設計調査ノ爲メ「アカデミタ」「アレタサンドロフ」（「ドネプロストロイ」ノ設計者）ヲ主班トスル「ユイジエ、ウオルガ、プロエクト」調査設計機關ヲ農務部ニ設クルコト等公布セリ

△「ウオルガ」ー「モスクワ」間運河開鑿

六月一日付内閣ノ決定ヲ以テ「ウオルガ」ー「モスクワ」間ノ運河開鑿ヲ即時起工シ一九三四年十一月迄ニ完成スヘキ旨命令アリタリ

(三) MTC

● 「トラクトルツエントル」ノ株式割當

五月八日付内閣決定ヲ以テ最ニ第六回聯邦中央執行委員會總會ニ於テ決議セラレタルMTC千七百ケ所ヲ本年中增設ノ件ヲ實行スル爲(一)「トラクトルツエントル」ノ株式資本ヲ三億留ヨリ十一億五千萬留ニ增資シ(二)其内本年中「コルホズ」及農家ニ割當ツル分ヲ二億五千萬留ト定メタリ

本年第二期中全國ニ右株式八四四、一二三千留、「プラン」ノ一一〇%ノ應募アリタリト

● 圖藝MTCノ開設

六月二十五日付内閣決定ヲ以テ郊外農業ノ圖藝MTC百ケ所ヲ開設

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

レ所有「トラクター」ノ總數ヲ七千五百馬力トシ㈠之ヲ各工業中心ニ分チ㈡一MTCノ所有「トラクター」ヲ五臺トシテ㈢消費組合ノ管轄ニスルコト等ヲ定メタリ

在オデッサ日本領事館

E-0286

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二、　工業生産

工業生産額ニ關シ國民經濟調査中央廳ノ公表スル處左ノ如シ（單位百萬留）

▲印ハ四、五、六ノ三ケ月分ヲ合算セルモノニシテ第一期及六ケ月累計間ニ違算アルモ當局發表ノ儘ヲ掲ク

在オデッサ日本領事館

D

E-0286

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

	第一期		四月		五月		月	
	生産高	對前年同期%	生産高	對前月%	對前年同期%	生産高	對前月%	對前年同期%
A類	四、三五六、五	一二五、六	一、三二二、八	八二、四	一二二、一	一、二四七、三	九四、二	一三四、九
B類	五、三六一、八	一一四、一	一、〇六二、三	九二、五	一一七、三	九七九、〇	九二、〇	一一〇、一
計	七七一八、三	一二〇、五	二、三八五、一	八六、七	一一九、九	二、二二六、三	九五、二	一一、七
●所管別								
重工業部	五、四〇四、一	一一三四、〇	一、一六一、〇	九六、八	一二九、三	一、一三五、三	九七、五	一二、六
林業部	八八二、三	一〇二、三	一三五、九	三五、九	八四、二	九〇、六	六六、九	一一、八
輕工業部	二、一〇四、七	一一七、三	七三四、八	九七、五	一二〇、一	六九二、一	九四、二	一一、五
供給部	一、三二七、二	一〇九、二	三五五、四	九四、一	一一、一	三一〇、三	八七、三	九、八

在オデッサ日本領事館

E-0286

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

月	對前年同期%	生產高	對前月%	對前年同期%	月	對前年同期%	生產高	對前月%	對前年同期%	月	對前年同期%	生產高	對前月%	對前年同期%	月	對前年同期%	生產高	對前月%	對前年同期%
五										六					▲第二期				
	一三二、一	一、二四七、五	九四、二	一二、四		一三四、九	一、三五一、九	一〇七、七	一一七、一		三、九二二、〇	八、三二九、五	一二五、五	一二八、二	六ヶ月累計	一二五、五	一、二五一、九	一〇七、七	一一七、一
	一一五、五	一、一七五、〇	九五、〇	一一〇、一		一一〇、七	九七九、〇	九九、一	一一〇、七		三、〇〇七、六	六、三七三、一	一一二、五	一一二、五		一一二、五	一、一二五、〇	一〇四、〇	一一〇、七
	一一一、一	一、二二六、五	九三、二	一一七、九		一一四、三	一、二二六、五	一、〇四、九	一一四、三		六、九二九、六	一四、七〇二、六	一一九、五	一一九、五		一一九、五	一、一八六、三	一、〇四、〇	一一七、一
	一一〇、五	九九二、一	九〇、六	九四、二		一一五、八	九六、六、三	一、〇〇、九	一一〇、四		三、四八〇、六	六、九二二、七	一一六、〇	一一六、〇		一一六、〇	一、一四〇、〇	一、〇〇、九	一一〇、四
	八七五	九	六六、九	一一八、二		八四	二九七、〇	九六、四	九六、五		九六二、七	二、二八八、八	一〇六、一	一〇六、一					

在オデッサ日本領事館

E-0286

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

各部所管ノ國營工業ノ生産額ハ昨年十二月ヲ最高トシ本年一、二兩月共月々減退シ三月ニ至リ恢復シ前月ニ比シ約一割増加シ一月ノ夫ヲモ超過セルモ四月ニ入リ更ニ一三%餘ノ減退ヲナシ二月ヨリモ更ニ少額ナリシカ其類勢ハ五月ニ及ヒ六月ニハ前月ニ比シ約五%ノ増加ヲナセルモ四月ヨリハ少ナク之ヲ前年同期ニ比スルニ第一期ハ二〇%ノ増率ナリシニ五月ハ一八%弱ニ、六月ハ一四三%ニ降リ本年上半期全體ニ於テ一九五%増ニテ本年統制數字ノ豫定増率三六%ニハ却々及ハサル結果ヲ見タリ

國營全工業生産額中重工業部所管ハ約半分ヲ占ムル處其生産額ハ一般工業ト同樣ニ一、二月ノ退勢ハ三月少シタ恢復セルモ四、五月亦々減退シ六月値少ノ増加アリ前年同期ニ對スル増率ハ第一期ニ三四

%ナリシカ上半期ニ於テ二八二%トナリ豫定ノ四五%ノ増率ニハ及ハス

林業部所管工業ハ三、四、五ノ三月ハ前月ヨリ減産ニシテ前年同月ニ比シ一、二、四ノ三月ハ減少シ第一期ノ増率二三%ナリシカ第二期ハ五、六月分ニ於テ昨年ヨリ増加セル爲メ上半期ヲ通シテ一二%ノ増加ヲ見タリ

輕工業部所管工業ノ生産額ハ三月ノ外年初ヨリ逐月減退ヲ續ケ上半期ニ於テ昨年ヨリ一六%増加セルノミナリ

供給部所管ニ於テハ三月以外ハ逐月減産ノ一途ニシテ上半期ニ於テ前年同期ヨリ六%ノ増加アルノミ

△ 重要品ノ生産額

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

本年上半期ニ於ケル重要品ノ生産額ヲ示セハ左ノ如シ

	單位	生産高	對プラン	對前年同期
採炭	千噸	三二、九二五	八一%	一二三%
石油	同	一、二四六	九二、九	一〇六、八
銑鐵	同	二、九八四	八二	一二八
鋼	同	二、九一四	七八	一一一
トラクター	臺	二、〇一九	七九	一七四
自動車	同	九、一二四	七六	一一八
化學工業	百萬留	六〇五、六	八九	一三九

右ニ擧ケタル重要品ノ生産高ノ中第一期ノ成績ト比スレハ銑鐵ノ增加ノ外孰レモ生産減退ナリ

△「ウクライナ」ノ工業

「ウクライナ」國營工業生産額ハ昨年同期ニ比シ第一期ハ二八、八%增ナリシカ上半期ニ於テハ二一、三%ノ增加ナリ內重工業二七、二%、輕工業一二、一%、食品工業二五、三%增ナリ而シテ「プラン」ニ對シ第一期ハ八五%ナリシカ上半期ハ八一、八%ナリ

其勞働者ハ昨年同期ニ比シ一五%、勞銀ハ二五%增加セリ

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一、重工業

本年上半期ノ重工業生産成績ハ「プラン」ノ八二%ナルカ各種工業中「プラン」ヲ實行セルモノハ新建築材料一二八、七%、化學機械製造一〇六%、「オートゲン」工業一〇一、五%、運輸機械工業聯合ノ内工場内「トランスポルト」工業九九、九%ニシテ他ハ豫定計畫實行不能ナリ

「ウクライナ」ニ於ケル重工業ノ「プラン」實行率ハ第一期ハ四六%ナリシカ上半期ニハ八一、九%トナリ生産額ノ前年同期ニ對スル割合ハ第一期ニ六一%、上半期ニセ二%増ナリ共和國所管重工業ノ生

産高ハ「プラン」ノ第一期ハ七九、八%ナリシカ上半期計ハ七〇%トナリ前年同期ニ對シ第一期ハ一八%増ナリシカ第二期ハ四二%増トナレリ

重工業中重ナルモノ、「プラン」實行率ト前年ニ對スル割合ヲ示セハ左ノ如シ（%）

	對プラン	對前年同期
採炭	八〇、六	一二三
石油	九二、九	一〇六、八
製鐵	七八、八	
内「ウラル」各製鐵所	六五、一	
有色金屬	七一、五	

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

耐火煉瓦	六八、九
一般機械工業	七九、三
重機械工業	九〇、一
内 石油機械	七八、二
農業機械	五九、九
ディゼル	七六、八
食品製造機械	七七、四
化學工業	八九、〇
	一三九

右ノ如ク燃料カ八割臺ニシテ製鐵カ七割臺ナルヲ以テ機械製造工業モ其影響ヲ受ケ又自己工業内ノ缺陷ノ爲メ充分生産能率ヲ發揮スルヲ得サリキ

△ 重工業ノ質的成績

重工業生産計畫ハ本年第一期八六、五%、第二期七八、二%遂行ノ處其原因ノ一トシテ勞働者ノ減少ヲ指スモノアルモ勞働者ハ第一期ニ豫定所要數ノ九九%、第二期九二、二%アリテ其減少ノ度大ナラス尤モ工業ノ種類ニ依リテハ相當ノ增減アリ就中炭坑勞働者第一期平均三十二萬九千人、第二期三十二萬三千八百人、一月三十四萬四千五百人ハ七月ニハ三十萬二千五百人トナリ製鐵及有色金屬工業ハ增減アリタルモ大體年頭當時ノ數ニ在リ機械工業ニ於テハ一月ノ九十一萬一千人ハ六月九十五萬人ニ增加シ一般ニ大ナル減少無カリキ

勞働ハ本年五ケ月間ニ前年同期ニ比シ二三、三%上リ本年中引上限度

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一七%ニ對シ既ニ一三、二%上レリ例ヘハ炭坑夫ハ昨年初ヨリ年末迄ニ二八%増加シ製鐵業ニ於テハ昨年第四期ニ初五ケ月間ヨリ三一%ノ増加アリ勞銀ノ月平均額ヨリ云ヘハ最高位ニ在ル動力機械製造工ハ本年五ケ月間ニ前年同期ヨリ一五、五%増加セリ

勞働者ノ移動ハ月ヲ追テ増加スルノ傾向ニ在リ其免職者ノ割合ハ定員數ニ對シ一月一二、一%、四月一〇、五%、五月一二、二%トナリ就中炭坑ニ於テハ一月一八、七%、四月一四、二%、五月一五、四%、有色金屬工業ニ於テハ一二、五%乃至一四、一%アリ

勞働紀律モ依然改善セス無斷缺勤ノ率ハ勞働時間ニ對シ一月〇、四八%、四月〇、四五%、五月〇、五三%ニシテ石炭工夫ニ於テハ右平均數ヨリ多シ

依テ勞働者一人當リ生産高ノ昨年同期ニ對スル増率ハ上半期六、一%内第一期七九%、第二期四、七%、六月一、一%ニシテ就中石炭業ニ於テハ増加セスシテ却テ二、六%減少シ採油ニ於テハ二、七%、鐵鑛採收二、六%、有色金屬五、七%ヲ減少シ好成績ノモノハ發電所ノ一〇、五%石油再製ノ一五%、製鐵ノ七四%、一般機械製造ノ一四、三%等増率アリ右ハ一九二九年ノ一五、五%、一九三〇年ノ一二、二%増及本年ノ統制數字豫定三一%ニ比スレハ未タ及ハサルコト遠シ

原價ノ低下ハ生産「プログラム」カ實行セラレス勞働生産力モ揚ラス勞銀ノミ騰貴セル狀態ニ於テ之ヲ置ムコトハ不可能ナルカ一般機械製造工業ノ如キハ五ケ月間ニ八、一%ヲ低下シタルカ其他ハ執レモ低下ノ代リニ向上シ五ケ月間ニ石炭ハ一五、一%、製鐵ハ七六%、内

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

製鋼ハ九％、其各「トラスト」中「ウオストコスタリ」（ウラル）ハ第一期三、七％、第二期三、五％低下ノ豫定ヲ裏切リ二期ヲ通シテ一二、二％ノ向上ヲ見、重工業一般ニテ五ケ月間ニ二、六％ノ向上ヲナセリ而シテ輕工業ハ更ニ不成績ニテ三、八％ノ向上ナリ

重工業ノ財政的成績ニ付テハ右ノ如ク原價低下ノ豫定カ實現セラレス利益ナクシテ缺損ナリ右ノ外材料及製品ノ停滯高增加シ其金額本年第一期ノミニテ十億留、約一六％增加セリト而シテ材料貯藏品ノ內容モ惡シクナリ基本的原料及燃料ノ貯藏減シ第二義的材料ノ貯藏高激增シ而モ品揃不良ニシテ生產未了ハ第一期ニ三〇％ヲ、半製品ハ一一％ヲ增シ材料ノ死藏ヲ來セリ尙運輸狀況不良及一部貨物回轉遲滯ノ爲メ「途中ノ材料」ノ停滯多シ此狀態ハ第二期ニ入リテモ繼

續シ原料及燃料ノ貯藏減シ補助的材料ハ增シ「途中ニ在ル材料」ノ殘品ハ第一期中六千五百萬留卽チ九、五％、四月一日ヨリ六月一日迄ニ尙八、五％ヲ、六月又六％ヲ增加シ商品回轉ノ遲滯ハ續キ居レリ

(一) 石炭

第二期ノ全聯邦石炭採掘高ハ千五百六十三萬七千噸ニシテ第一期ノ採炭高千七百二十八萬八千噸ニ比シ百六十五萬一千噸ノ減少ニシテ其「プラン」實行率ハ第一期ノ八七、七％ニ對シ七四、七％ナリ而シテ前年同期ニ比シ第一期ハ三六％增加ナリシカ第二期ニハ一七％增トナレリ

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

依テ本年上半期ノ採炭高ハ三千二百九十二萬五千噸ニシテ豫定ノ八一%ナルカ前年同期ニ比シ二三%ノ増加ナリ而シテ昨年ハ一體ニ計畫過大ニシテ成績モ不良ナリシニ本年ノ計畫ハ昨年ノ實績ニ基キ慎重立案セラレタルモノニシテ計畫其モノニ差異アルモ全聯邦中最大炭田ナル「ドンバス」ニ付テ見ルニ昨年上半期ノ「プラン」實行率ハ六六%ナリシニ本年同期ニハ八四%ニシテ實際採炭量絶對數モ多タ又計畫ノ採炭不能量カ「ドンバス」ノミニテ昨年ノ千七十六萬噸ニ對シ本年上半期ハ四百二十七萬噸ナルヲ以テ本年ノ成績ハ不足ナリト雖モ大ニ改善セラレタリト云フヘシ

本年上半期全聯邦ノ採炭高ハ第二期ニ入リ逐月減退セルカ其數量左ノ如シ（單位千噸）

	採炭高	對プラン%	對前年同期%
第一期			
四月	一七二八八	八七七	一三六〇
五月	五五〇六	八二〇	
六月	五一〇〇		一一七四
第二期計	五〇三七	六九〇	
上半期計	一五六三七	七四七	一一七〇
	三二九二五	八一〇	一二三〇

一日平均高二十二萬七千噸ノ「プラン」ニ對シ左ノ通ニシテ亦減少シツヽアリ（單位千噸）

三月	一八六四
四月	一八三五

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

五月	一七四、七	
六月	一七一、〇	
上半期平均	一八四、〇	

即チ第二期ニ於テハ上半期平均數量ヲ超ヘタル月ナシ

△「トラスト」別

炭業各「トラスト」別ニ其本年年上半期ニ於ケル成績ヲ示セハ左ノ如シ

		對プラン%	對前年同期%
トラスト		八四、七	一二二、〇
ウゴリ		八一、六	一一三、六
北高架索		七六、五	一四一、〇
モスクワ		七三、五	一五六、〇
ウラル		八一、四	
クヴネツク		四八、二	
カラガンダ		七一、四	
東部西伯利		七〇、一	
極東		六一、〇	
中亞			

聯邦中最大ノ炭田ナル「ドンバス」ノ採炭高ハ本年一月以來逐月不成績ヲ續ケツヽアルカ其採炭高（北高架索ヲ含ム）ヲ示セハ左ノ如シ（單位千噸）

	採炭高	
	豫定	實績
	平均一日採炭高	
	一九三二年	一九三一年

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一月	四、四二五	四、二四五	一四一、五	一〇八、六
二月	四、四〇五	三、九七二、七	一三七〇	九八、八
三月	四、八五〇	四〇六四、三	一三一、一	一〇〇、一
第一期小計	一三、七八〇	一二、二八二、〇		
四月	四、五三二	三、八三二、七	一二七、八	一一一、三
五月	四、五二二	三、五五九、〇	一二二、七	一一一、〇
六月	四、七四六	三、六二九、九	一二〇、八	一〇九、八
第二期小計	一三、八〇〇	一一、〇二一、六		
上半期計	二七、五八〇	二三、三〇三、六		

右ノ如ク「ドンバス」ハ本年上半期間ニ豫定採炭高三百四百二十七萬噸餘ノ不足ニシテ「プラン」ノ八四五%ナルカ其内第一期ハ八九、

一%、第二期ハ七九、八%ヲ遂行セリ之ヲ前年同期ニ比スレハ二二、五%ノ増加ニシテ採炭不足高ハ前年上半期ハ千七十六萬噸、「プラン」遂行ノ割合ハ第一期六六%、第二期六六、二%ニ比スレハ缺陷アリト雖モ大ニ改善セラレタリト云フヘシ

「ドンバス」炭坑ノ勞働者ハ前年ニ比シ八萬人増加シ五、六兩月ノ減退期ニモ減少セス六月ハ一〇、三%モアリ機械ハ鑿岩機一、三六三臺、碎炭機五一三〇挺、「スタレバー」六七一挺ナルカ其使用率ハ不良ニシテ右ノ中鑿岩機ハ千臺、碎炭機ハ三千挺ニ止マレリ

投資額ハ本年ノ三億三千四百萬留中五月迄ニ一億留ヲ支出シ新鑿炭坑モ相當採掘セラレタリ

採炭不足ノ原因ニ付テハ四月ノ例ヲトルニ採炭不足高六十萬噸中原

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

因別ニスレハ(一)機械及設備ノ破損ニ依ルモノ百分中二一%、休業二〇%、勞働者不足一二%、能率低下二%ニシテ殘リ四五%ハ他ノ原因ニ依ルトセラル右ノ原因中ニハ(一)鑛山機械ノ製造豫定通リニ進捗セス「リフト」坑内設備ニ不足アリ五月八日付重工業部命令ニ依リ炭坑ニ機械供給改善ヲ圖レルカ充分ニ實行セラレス六月中「ドンバス」炭坑ニ供給スヘキ「コンベイヤ」用綱五千二百個ハ八百個供給アリ二千五百ノ「トロコ」車ハ一車モ無ク安全瓦斯「モーター」ハ大不足、電氣機關車ハ全タ無キ等(二)勞銀關係ヨリ兎角機械ノ使用ヲ回避シ(三)直接指導者不足シ例ヘハ「スタリノ」ノ炭區ノ如キ三四三人ノ技師中坑内作業ニ從事スルモノ一三一人、他ハ事務所ニ在ルカ如キ例アル等トセラル、カ勞働者ニ對スル給養不良ナルコト最大原

因ナルカ如シ

他ノ炭坑ニ於テモ同樣ニシテ豫定ノ採炭不能ハ全然機械掘方面ノ責任ニシテ上半期機械掘ノ豫定ハ二千萬噸ナル處其實行セ三、六%ナリ

(二) 石油

石油ノ採收量ハ上半期ニ於テ千百二十四萬六千噸ニシテ前年同期ニ比シ六、八%増收ナルモ「プラン」ノ進行率ハ九二、九%ナリ

採收ノ月別ヲ示セハ左ノ如シ（單位千噸）

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

	全聯邦		アズネフチ		グロズネフチ		マイネフチ	
		對プラン%		對プラン%		對プラン		對プラン%
第一期	五、六〇二	九七、八	三、一一五	九五、四				
四月	一、八七二	九一、七	一、〇四四	九四、三		一〇〇、五		九三、五
五月	一、九二〇	九〇、七	一、〇六五	八八、三		八七、三		七〇、九
六月	一、八五二		一、〇九一	八六、四		—		六八、一
第二期計	五、六四四		三、二〇〇	九〇、二		九七、〇		
上半期計	一一、二四六	九三、九	六、三一五	九二、四	四、〇九八	九六、三	五、三七八	八三、七
對前年同期（%）	一〇六、八		一一七、二		一〇七、三		三三、一	

本年ノ彩油計量ハ二千七百四十萬噸ニシテ前年ニ比シ一九%増ノ豫

在オデッサ日本領事館

定ナルカ上半期ノ成績右ノ如タナルヲ以テ後半期ニ努力ヲ要ス而シテ上半期ノ「プラン」實行程度ハ昨年同期ト殆ント同一ナリ唯第二期生產ハ延月被遲シ七月ニ入リ益々減少ヲ續ケツヽアルコトハ注意スヘキ處ナリ

石油ノ再製量ハ第二期五百四十八萬噸、上半期一千六十七萬四千噸ニシテ殆ント豫定ニ近キ成績ニシテ前年同期ニ比シ一五%増加セリ

鑽井ノ延長ハ四十萬三千八百米ニシテ前年同期ニ比シ七九%ノ増加ナルカ「プラン」ハ八九、九%ヲ實行セリ

石油採收地ハ最近益々増加スル處「バシキル」自治共和國「ステルリタマク」ニ於テハ五月十六日第七〇二號鑽井噴油シ其隣區モ間歇的ニ噴油シ居リ專門家ノ計算ニ依レハ一日四噸ヲ出スヘシトノコト

在オデッサ日本領事館

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ニテ鑿井事業モ進捗シツヽアリト

石油工業ノ大問題ハ現段階ニ於テハ其輸送問題ニシテ右ハ「タンク」送油船及送油管ノ建築如何ニ係ル處本春「アルマビル」ヨリ「ニキトフカ」（ドンバス）間ノ送油管完成、「カスピイ」ー「オルスク」間ハ工事中ナリ

送油「タンク」建造ハ四軸車五千五百（昨年ハ二、七三四車）、二軸車一千（昨年ハ七五四車）ノ計畫ナリ

上半期ニ於ケル石油輸送高ハ豫定ノ八七％ナルカ其内第一期ハ九二、六％、第二期ハ八三、六％ニ減退セリ

(三) 泥炭採收及燃料ノ「バランス」

泥炭ハ本年中千四百三十萬噸採收ノ豫定ナル處季節ノ最初ヨリ六月末迄ニ四百五十一萬噸即チ同期間ノ「プラン」ニ對シ六一、五％ヲ採收セリ

燃料ノ「バランス」ハ上半期ニ收入ノ部ハ七三％、内生產七九、八％鐵道輸送八九、五％ナルニ支出ノ部ハ豫定量ヲ超過シ其結果燃料貯藏量ハ減少セリ

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(四) 製鐵

第二期銑鐵ノ生産高ハ百五十八萬六千噸ニシテ第一期ニ比シ十八萬八千噸ノ増加ニシテ上半期合計二百九十八萬四千噸トナリ「プラン」ノ八二%ナルモ前年同期ニ比シ二八%ノ増産ヲ示シ半年間ニ本年豫定ノ三分ノ一ヲ生産セリ

鋼及壓延鋼材ノ生産高ハ上半期合計シテ鋼ハ二百九十一萬四千噸、「プラン」ノセ八%ヲ實行シ前年同期ニ比シ一一%ヲ増加シ壓延鋼材ハ二百二十一萬五千噸ニシテ「プラン」ノ八三%ニシテ前年同期ニ比シ一三%増加セリ

製鐵生産額ノ月別ヲ示セハ左表ノ如シ

	銑鐵			鋼			壓延鋼材		
	千噸	對プラン%	對前年同期%	千噸	對プラン%	對前年同期%	千噸	對プラン%	對前年同期%
第一期	一、三九八	八〇	一二七	一、四六七	七九	一一六	一、一四三	八七	一二二
四月	五一六	八七		四九一	七八		三八六	八五	
五月	五五四	八六		四九七	七七		三六〇	七七	
六月	五一六			四六一			三二六		
第二期	一、五八六			一、四四八			一、〇七二		
上半期計	二、九八四	八二	一二八	二、九一四	七八	一一一	二、二一五	八三	一一三

一日平均製造高（單位噸）

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

	銑鐵		鋼		壓延鋼材	
	三二年	三一年	三二年	三一年	三二年	三一年
第四期						
第一期	一五、三六四	一四、三六六	一六、一三一	一五、三三五	一二、七〇八	一〇、四九六
		一二、一八三		一四、〇五五		
四月	一七、二一〇		一六、三八六	一五、二八〇	一二、九〇〇	
五月	一七、八七一	一三、二〇九	一六、〇七二	一四、七三二	一二、四二一	一一、七五二
六月	一七、二八五		一五、三八四	一四、八八〇	一〇、九五九	
第二期					一一、七〇〇	
上半期			一六、〇二四	一四、五一八		
對前年同期%	一二七六	一	一一、一〇	一	一一、二七	一

重ナル「トラスト」ニ付テ見レハ其生産高左ノ如シ

在オデッサ日本領事館

	スタリ	ドネプロスタリ	ワストコスタリ			
	千噸	對プランン	千噸	對プランン	千噸	對プランン
銑鐵						
第一期	六六九	九一%	二九九	八一%	二〇五	七五%
四月	二五〇		九九			
五月	二六一	九四	一一二	九七	七一	七六
六月	二二九	八六	一一九	九一		
上半期	一、四〇九	九四	六二九	九六		七三、三
鋼						
第一期	五三七	九一	三〇八	八二	一七八	六五
四月	一七七		一〇七			

在オデッサ日本領事館

E-0286

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

五月	一七九	八六	一〇四	七八	六七
六月	一六九	八四	八五	七三	
上半期	一、〇六二	九〇	六〇三	八一	
毛織延鋼材					
第一期	四二八	九〇	二五五	九一	一一六
四月	一三五		九〇		
五月	一三三	八〇	八五	八〇	四一
六月	一二六		六三	七〇	三八
第二期	三九四		二三八		
上半期	七二二	九〇	四九三	八六	六八

右「スタリ」及「ドネプロスタリ」等ノ殆ンド全部ヲ含ム「ウクラ

在オデッサ日本領事館

イナ」ノ製鐵成績ハ左ノ如シ

	對前年同期增率%	對前期增率%
第一期	上半期	第二期
銑鐵	二九〇	二六〇
鋼	二二、五	一三、八
壓延鋼材	二五五	一五〇

第二期ノ不成績見ルヘキナリ

本年上半期ノ製鐵生產狀況ハ右ノ如ク第二期ニ入リ三月ヨリ生產減少シ五月再ヒ增加シ殊ニ銑鐵ノ製增大ニ增セルモ中旬ヨリ減退シ六月ハ甚タシク不況ニ陷リ殊ニ銑鐵ト製鋼トノ開キ增大セリ

上半期ニ於ケル銑鐵ノ製造高ハ三百六十五萬噸內五十七萬六千噸ハ

在オデッサ日本領事館

E-0286

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

新築焙燒爐ニ依ル豫定ナル處實績ハ六十六萬五千噸ノ不足ヲ來セリ
新築焙燒爐ハ十基、其有効容積七千八百立方米ヲ作業セシムル豫定ニ對シ作業開始セルモノハ基、有効容積六、一九七立方米ニシテ而モ期ニ後レ其製造高二十六萬噸豫定ノ四五%ニシテ「プラン」實行不能ノ最大原因ヲナセリ

製鋼ニ於テハ新「マルテン」爐九基、其面積五百方米ノ豫定ニ對シ五基、百六十方米作業スルニ至リ其製造高ハ十三萬八千噸ノ豫定ニ對シ二萬五千噸ナリ製鋼上重ナル不振ノ原因ハ舊爐ノ利用力減シ一九三〇年上半期ノ製鋼高ト同一爐ニ依ル本上半期ノ夫ト比較スレハ實ニ六乃至七%ノ減少（銑鐵ハ二、五%ノ減少）ニシテ上半期製鋼不能高八十三萬四千噸ノ內舊爐ニ依ルモノ七十二萬噸卽チ八六%ナリ

壓延鋼材ニ付テモ同樣ニシテ製鋼高ハ一九三〇年上半期ハ本年上半期ヨリ二萬六千噸少ナカリシモ鋼材ハ三萬九千噸多カリキ壓延臺ハ上半期中九臺完成ノ豫定ニ對シ一臺モ完成セス

其他ノ原因ニ付テハ七月八日付重工業部參與會議ノ製鐵不振善後策ニ關スル決定中ニ擧ケラレ居ル處其要領左ノ如シ

本年上半期中焙燒爐八基新ニ作業スルニ至リ一月一日平均銑鐵一萬六千噸ヲ製出シ五月ニハ一萬九千噸ニ達セシメタルニ此水準ヲ保持シ得ス六月ヨリ入リ左ノ工場ハ次ノ通リ生產ノ減退ヲ見タリ

マケエフカ工場	千九百乃至二千噸ヨリ　千五、六百噸
ルイコフカ工場	千五、六百噸ヨリ　千三百噸ニ
スタリノ工場	千八百噸ヨリ　千三百噸ニ

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ペトロフスキイ工場　千九百噸臺ヨリ　千五百噸臺ニ

右ハ經濟的、技術的指導ノ衰退ニ因ルモノニシテ又鋼及展鐵ノ製造ニモ見ラルヘク「マルテン」爐ノ休止率ハ豫定ノ二〇％ニ對シ「トラスト」、「スタリ」ハ二八％、「ドネプロスタリ」ニ三％、「ワストコスタリ」ニ五％トナリ熔金數ハ三五〇―四〇〇ノ豫定ハ一五〇―二〇〇トナリ爐ニ對スル最モ普通ナル監督無ク爐ノ修繕遲ク且不良ニシテ爐ヲ酷使シ機械ノ狀態ニ不注意ニシテ部分品ノ豫備無ク製煉ノ合理化ハ最近兩三年極メテ低ク銑鐵ノ品質不良ノ爲メ其製鋼部ノ事業ヲ阻害スルモノアリ右ノ如キ製鐵殊ニ製鋼業ノ不振ハ默止シ難キニ付其生產增加ノ方策トシテ(一)七工場熔鑛爐部ノ機械化(二)「マルテン」爐ノ休止縮減、爐ノ監督勵行、係員ニ對スル給料及「プレミヤム」增額(三)機械ノ修繕及豫備品ノ供給(四)耐火煉瓦ノ增產及品質改善(五)製鋼材料及燃料等ノ供給改善(六)「ミクサー」建築、鋼ノ品質向上(七)瓦斯部ノ整備(八)展鐵部殊ニ鐵板部ノ合理化及小改造(九)製鋼部ノ建設事業準備(十)工場現場ニ技術員ヲ移シ設計、研究教育機關ノ技術員ヲ檢査シ五年以上生產ニ從事セルモノヲ現場ニ移スコト等定メラレタリ

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(五) 有色金屬

本年ノ有色金屬製煉豫定高ハ金額七億一千六百萬留ニシテ昨年ニ比シ七三%增ナルカ其重ナルモノヽ數量左ノ如シ

銅	八九千噸
鉛	三八
亜鉛	二八
アルミニユーム	六

イ 銅

銅ノ製煉高ハ全國ニテ第一期一七五〇〇噸ノ豫定ニ對シ一二八〇〇噸即チ七三%ニシテ其内鑛石ヨリ製煉セルモノヽ「プラン」實行率ハ重工業部機關紙所報ニ依レハ五八%ナリ而シテ四月ハ四千六百噸即チ「プラン」ノ五八%ヲ製煉セルカ其内鑛石ヨリノ製煉成績ハ四五六%ニシテ前年同月ニ比シ九、一%減少シ四ケ月累計二五四〇〇噸ニ對シ製煉不足八千噸ニシテ前年同期ニ比シ五、三%ノ增加ナリ而シテ五月ハ「エコノミイチエスカヤ、ジズニ」紙所報ニ依レハ四二六〇噸ノ不足ナリ

上半期ノ製煉高ニ關シテハ未タ確カナル數字無キモ重ナル合同別ニスレハ左ノ成績ナリ（單位噸）

豫定	實績	對プラン%

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

セフツウエトメト（北部）	二六、三二九	一一、六七六	四四
カヾツウエトメト（カザツクスタン）	二六、五二〇	一一、七七六	四四
カフツウエトメト（高架索）			一〇二

北部色金合同中「ウラル」鑛工場ハ成績殊ニ不良ニシテ「クラスノウラル、ヨムビナト」ハ本春完成セルモノニシテ本年中一萬六千噸即チ全國製煉銅ノ二二％ヲ製造スル豫定ヲ有スル最大ノ工場ナルカ三月ハ「ブラン」ノ一九、三％、四月二七、六％ニシテ「カラチン」工場モ三月二九％、四月三六、三％等ナリ

鑛石ヨリノ製煉ハ最近三年來殆ント進展セス一九二八ー九年度三萬三千噸、一九二九ー三〇年度三萬四千噸、一九三一年三萬一千噸、本年上半期一萬六千百噸ナリト

但シ銅ノ鑛石ヨリノ製煉ノ不足ハ再製煉ノ產物ニ依リ之ヲ補塡シ不足ナカランモ上記ノ如キ生產高ヲ示スモノナリ

四　鉛

本年ノ鉛製煉豫定高ハ三萬八千噸ナル處年初以來每月增產シツヽアリ第一期ノ製煉高四、九四二噸豫定ノ六二％ニシテ四月ハ二、〇八六噸ヲ製煉シ四ケ月累計七〇四七噸、「ブラン」ノ六七％ナリ

鉛製煉所中最大ノ「リヂル」工場ハ四ケ月ニ三、三六〇噸製煉豫定ノ處三月ハ四八、九％、四月三一、七％ヲ實行セルノミ

八　亞　鉛

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

亜鉛ノ本年製煉豫定高ハ二萬八千噸ナル處一月ヨリ四月ニ至ル四ケ月ノ成績ハ四、四五八噸ノ豫定ニ對シ三、五〇一噸卽チ七八、五%ヲ製煉セリ

主要工場中北高架索「オルジョニキゼ」工場ハ四ケ月間ニ一、九五〇噸製煉ノ豫定ニ對シ三月ハ五九、四%、四月ハ八〇%ヲ、「ベロフスキイ」工場ハ四月中「プラン」ノ五七、六%ヲ實行シタルノミニテ製煉增加ノ「テムボ」極メテ低シ

「ドンバス」「コンスタンチノフカ」亜鉛製煉工場ノ狀況ニ關シ四月三日付實行委員會ノ決定ニ依レハ同工場ハ一九三〇年十一月完成程度カ四五%ナルニ不拘計畫能力年產一萬二千噸製造ノ全能力ヲ擧クル如タ作業開始セル爲メ事業ハ過重トナリ設備ハ破損シ原料ノ加

工粗惡ニシテ合計一千萬留ノ損失ヲ來シ工場ハ殆ント全休ノ狀態トナリ一九三一年ノ生產計畫ハ一八%ヲ實行セルノミナリト右ハ「ソウエト」新工場カ實力以上ノ計畫ノ爲メニ未完成無準備ナルニ不拘作業開始ヲ急ク結果ヲ示スモノナリ

三　アルミニユーム

「アルミニユーム」ノ本年製造豫定高ハ六千噸、其內四千噸ハ新築ノ「ウオルホフ、コムビナト」ニ於テスル「プロダクム」ナリ

「ウオルホフ、アルミニユーム、コムビナト」ハ「レニングラド」ヲ距ル百二十粁「ウオルホフ」水力發電所ノ近傍二五「ヘクタル」ノ敷地（外ニ勞働者町四八「ヘクタル」）ニ工費七千七百萬留ヲ以

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ヤ新築シ本年五月初旬完成作業開始セリ同工場ノ能力ハ年產一萬二千噸ナルカ本年ハ電解部二部ヲ操業スル處各部八十釜、能力月二五〇噸ニシテ年末ニハ二九〇—三〇〇噸ニ達セシムル豫定ナリ

尙「ドネプル」水力發電所ノ「アルミニューム、コムビナト」ハ年產能力二萬噸ノ大工場ナルカ近タ竣工スヘシ

(六) 機械製造工業

機械製造高ハ一九三一年ハ前年ノ三十五億二千九百萬留ニ對シ三四%增ノ四十七億三千七百萬留ナリシカ本年ハ六十八億留卽チ前年ノ

四四%增ノ豫定ナリ

本年第一期ノ成績ハ十六億一千二百萬留ニシテ豫定ニ達セス本年上半期ノ製造高ヲ前年同期ト比較スルニ三五、五%增內第一期ハ四三、四%增ニシテ第二期ハ二八、七%增、其內六月ハ（五一七四百萬留）二〇、七%增（飜本年五月ニ對シ四四%增）ニシテ製造高ハ每月增加シ又昨年同期ニ比シテモ增加シツヽアルカ增加ノ程度ハ右ノ如ク逐月減少シツヽアリ

「ウクライナ」ニ於テモ同樣ニシテ第二期ノ成績宜シカラス機械製造工業ノ重ナル合同ノ成績卽チ前年同期ニ對スル增率左ノ如シ

	第一期	上半期
電機	六一、〇%	四二、〇%

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

鑛山機械	四二、一	二六、九
汽關車製造	四三、〇	一九、一
クラマトルスク	二五、五	五、三
農業機械	三二、〇	二〇、〇

右「プログラム」ノ實行不能ノ原因ハ金屬ノ不足、原料ノ不揃ヱ在リ而シテ機械類ノ製造モ部分品不足ニシテ例ヘハ「ハリコフ」工場製ノ「トラクター」ニ「ラジエーター」無ク使用不能ノモノアリ製造額中ニ計上セラレタル機械ニハ此種不完全ナルモノ相當多シ品質不良ナルモノ多ク例ヘハ電機工場「プロレタリー」ノ製作品ハ五月中不合格品一五%ノ豫定ニ對シ二九、五%アリ「イゾリヤトル」工場ハ五一%アリ就レモ鑄金ノ不良ニ依ルト謂フ

在オデッサ日本領事館

本年ノ豫定機械製造高ノ重ナル内譯ヲ示セハ左ノ如シ（單位百萬留）

	一九三二年	一九三一年
自動車トラクター	一、〇〇〇	、、、
農具	一、二〇〇	、、、
電氣機械	九五〇	七一〇
汽鑵タービン	三三〇	、、、
交通運輸機械	一、一五〇	、、、
重機械業	三三〇	二二四
化學機械	八〇	五〇
其他ヲ含シテ合計	六、八〇〇	四、七三五
内新製品	三、〇七五	八九〇

在オデッサ日本領事館

E-0286

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

本年上半期ニ於ケル重ナル機械製造工業ニ付テハ左ノ如シ

イ　「トラクター」及自動車

本年上半期ノ「トラクター」製造高ハ二、〇一九臺ニシテ前年同期ヨリ八、九六九臺多シ其工場別左ノ如シ

	實績	豫定
スタリングラド工場	一三、五二五	一七、七一二
ハリコフ工場	七、四九四	八、六九六
計	二一、〇一九	二六、四〇八

自動車ハ貨物及乘用共九、一二七臺ニシテ一九三〇年同期ハ二、四四八臺及前年同期ハ七七六九臺ナリ其工場別製造高左ノ如シ

	實績	豫定
モスタワ工場	七、三五〇	六、一九〇
ヤロスラブ工場	八五五	七四八
ニジエゴロド工場	三、八〇〇	一、二二三
組立工場　貨物車		七三八
同　乘用車		二二五
計	一二、〇〇五	九、一二四

「レニングラド」「クラスヌイ、プチロウエツ」工場ハ昨年迄「トラクター」ヲ製造シタリシモ本年ハ他ノ工場ノ出來タルト一部ハ軍用品ノ製造ニ移リ之カ製造ヲナサス「コムバイン」用ノ「モーター」ヲ製造シタルカ上半期三千個ノ豫定ニ對シ二、一五五個ヲ製造シタ

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

リト

右豫定計畫ノ實行不能ハ特別ニ供給セラルヘキ筈ノ金屬ノ供給不足ト工場内ノ勞働組織ノ不良ナリトセラル

ロ　交通運輸機械

本年ノ交通運輸機械製造豫定高ハ十一億五千萬留ナル處其製造業別ヲ示セハ左ノ如シ（單位百萬留）

	豫定高
合同	八五
機關車	三二五
車輛	三八五
ソユズウエルフ（造船）	三五五
河川造船	三二五

其内機關車ハ第一期二五六輛卽チ「プラン」ノ九〇％ヲ製造セルカ前年同期一八五輛、第四期二三七輛ナリ

電氣機關車ハ昨年第四期七臺ナリシカ本年第一期二六臺ヲ製造セリ

ハ　農業機械

一九三二年ノ農業機械ノ製造豫定高十二億留内農業機械聯合ハ前年ノ三億五千八百萬留ニ對シ七億五千萬留、BATO三億五千萬留ナリ

農業機械中收穫機ノ製造狀況ニ關シ重工業部機關紙所報ニ依レハ本年一月一日以來七月二十日迄ノ其製造及發送高左ノ如シ（單位個）

	豫定	製出	發送
收穫機			
期迄ニ引渡スヘキモノ			

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

東鋼機　トラクター	一〇、〇〇〇	六、八〇九	七、五二二		
同　馬力	四、五〇〇	一、六〇二	三、四五五		
ウアンドロウアー　十五吋	三、〇〇〇	九、八九	一、六四四		
同　二十吋	九〇〇	七五	五九		
疊疊機	七〇〇	三〇〇	三三一		
ロボグレイカ（收穫機）	一二、〇〇〇	三、四三七	九、五五九		
サモスキドカ（刈取機）	一〇、〇〇〇	一一、三〇六	一一、二一〇		
コムバイン「コムナル」工場	五、一〇〇	三、三五二	三、八五一		
同　「サラトフ」工場	一、七〇〇	一、〇三八	一、〇二二		
同　「ロストフ」工場	一、七〇〇	一、七〇〇	一、六九二		
收棉機ブネブマチツク	一、五〇〇	八〇一	五九一		
	二、〇〇〇				

在オデッサ日本領事館

D

二、引渡期限九月一日					
甜菜コムバイン	二〇〇〇	三七	一一		
打穀機「セルブイモット」	九、五〇〇	五二二一	四九六三		
同　「赤星」	六、五〇〇	三、九二五	三、八九八		
甜菜掘機	一、〇〇〇	二〇六	七七		
ビツカー	二、〇〇〇	八六八	八〇一		
シエルラー	三〇〇	二	七		
三、引渡期限十月一日					
亜麻碎麻機	八、六〇〇	四七六六	四六一三		
薯掘機　トラクター	一六、八〇〇	七六五八	七七〇七		
同　馬力	三、〇〇〇	三	一		

在オデッサ日本領事館

D

E-0286

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

亜麻梳機	三、五〇〇	二、三六七	二、三二二	
亜麻除塵機	三、五〇〇	二、二三一	一、九七九	
打綿機 馬力	二、二〇〇	一、三五一	一、二五九	

二 電氣機械

電氣機械ノ本年製造豫定高ハ九億五千萬留（昨年ハ七億一千萬留）ナル處第一期ハ豫定ノ一〇〇、九%ヲ實行シ技術上ニ大ニ進歩セルヲ示セリ

例ヘハ「電力」工場ハ第四期中初メテ五萬「キロワット」ノ「ターピン、ジエネレーター」ヲ製出シ本年第一期ニハ水力電氣「ジエネレーター」五萬「キロワット」ノモノ二基ヲ製造シ第二期ニ「ドネ

プロストロイ」用六萬二千「キロワット」ノモノヲ造リ第一期ノ「プラン」ハ一〇二、二%實行、「ダイナモ」工場ハ一九三一年中起重機用「モーター」ハ豫定ノ三五%即チ二、四二五臺ヲ造リ甚タ不成績ナリシカ本年第一期ハ一、〇九〇臺ノ豫定ニ對シ一、二〇七臺ヲ造レリ其外在「ハリコフ」工場ハ豫定ノ全部、「レプセ」工場ハ一〇三、四%ヲ實行セリ

(ロ) 化學工業

化學工業ニ關スル資料ハ甚タ不完全ナカラ新聞雜誌所報記事ヲ綜合

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

スルニ本年ハ生産額ハ前年ニ比シ四三、五％増加ノ計畫ニシテ其内四分ノ一ハ新工場ノ生産ニ係リ又一六％ハ新生産品ニシテ各種工業中基礎化學ノ生産品ニ三五％、「アニリン」工業ノ四四％ハ新工場ニ依ル豫定ナリ

本年ノ統制數字ノ豫定左ノ如シ

	一九三一年	一九三二年	對前年％
基礎化學	、、、	、、、	一五九、三
内 硫酸（千噸）	四二〇	八三〇	一九七、六
過燐酸（千噸）	五二〇	八五〇	、、、
ゴム	、、、	、、、	一四四、一
内 ゴム靴（百萬足）	五四	六三	、、、

タイヤ（千個）	五三〇	八三〇	、、、
人造繊維	、、、	、、、	三七三、九
アニリン染料	、、、	、、、	一二五、三

本年上半期ノ化學工業總生産高ハ六億七千一百五十九萬六千留ノ豫定ニ對シ六億五百六十五萬八千留卽チ八九、三％ニシテ前年同期ニ比シ三八、八％ヲ増加セリ

化學工業ノ各種別ニ付テハ左ノ如シ

	生産高	對プラン％	對前年同期
ゴム	、、、	九四、〇	一六四、七％
製藥	、、、	九四、〇	、、、
加里工業	、、、	九二、〇	、、、

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

内 硫酸（千噸）	二六五八	八〇〇
過燐酸（千噸）	三五四五	八〇二
鹽酸	、、、	九七〇
硫青	、、、	八一二

	八五五
	一二四九
	、、、
	、、、
	、、、
	、、、

(八) 製紙業

「ソ」聯邦一九三一年ノ製紙高ハ六十一萬一千噸ノ豫定ニ對シ四十九萬七千噸卽チ八一%ニシテ國中需要ヲ滿足スルニ足ラス製紙ノ缺

乏甚タシキ處本年ハ初メ八十萬噸ノ計畫ヲ立テタルカ後原料及工場ノ狀態ニ顧ミ六十七萬七千噸ト豫定セリ第一期ノ成績ハ豫定ノ七八%ニシテ三萬四千一百噸ノ不足ヲ見タルカ上半期ノ成績ハ二十二萬八千噸卽チ「プラン」ノ七四八%ニシテ七萬七千噸ノ不足ナリ昨年上半期ノ實績ニ比シ八萬三千三百噸增加ノ計畫ハ實際ニ於テハ僅ニ六千三百噸ノ增加ヲ見タルノミ而シテ「プラン」ノ實行率ハ昨年第一期ニハ八四七%ナリシニ本年ハ七八%ニシテ昨年第二期ハ八一、八%ナリシニ本年ハ七四、八%第一、二兩期平均七四、八%ニ下レリ

本年上半期製造不能ノ製紙七萬七千噸中新開及印刷料紙ハ四萬一千噸ニシテ昨年來激增セル新聞及雜誌ノ種類及發行部數ハ甚タシク制限セラレ地方新聞ハ料紙缺乏ノ爲メ時々發行不能ノコトアリ爲メニ

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

市中ニテ新聞ヲ買フニ長キ序列ヲナシ其順番ヲ待ツカ如キハ毎日ノコトニシテ紙質ハ改善セラレサルノミナラス益々悪化シツヽアリ

第三期ノ計畫モ七月一日各製紙工場代表會議ニ依リ十七萬七千噸ヲ現實ニシテ實行可能ト決定セルニ八月ニ入リ之カ減縮ヲ唱フルニ至レリ

製紙工場中「ニイジゴロド」地方ノ「パラフナ、コムビナト」ハ新築ノ大工場ニシテ作業開始以來三年ヲ經過スルモ其製造不足ニシテ經營成績良カラス勞働組織ノ改善ナキヲ以テ之カ改善方ニ關シ共產黨本部ハ六月十九日付ヲ以テ特ニ決定スル處アリタリ

(九) 發電所

重ナル新發電所ハ第一期中

	千キロワット	基	千キロワット
ヤロスラブリ	一一	三	三三
アルテモフスク（炭坑）	二五	一	二二
ズウエフ（炭坑）第二、三タービン	五〇	二	一〇〇
カシル	五〇	一	五〇
ゼルジンスカヤ	二四	一	二四
第二レニングラード第二タービン	二四	一	二四

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

計				九
完成セル處第二期ハ左ノ通リ				
ブリヤンスク工場	一一	一	一	二五三
チエリヤビンスク	二四	一	二四	
ドネプル	六二	二	一二四	
計		四	一五九	

上半期合計四十一萬一千「キロワット」分ヲ完成セリ

△「ドネプル」發電所

「ザポロジエ」市附近「キチカス」ノ「ドネプル」發電所ハ一九二七年十一月起工シ本年三月二十八日堰堤ノ築造ヲ了シ五月一日第一「ゲネラーター」ヨリ送電ヲ開始シ六月迄第二「タービン」ヨリ送

電セリ同發電所ハ第一次計畫ハ九萬馬力六萬二千「キロワット」ノ「ゼネラーター」九基ノ内六基及「ソウエト」製補助「タービン」二萬四千「キロワット」ノモノ一基ヲ八月一日迄ニ据付タル筈ナリシモ未タ完成ニ至ラス

同發電所ノ電力ハ同地「ザポロジエ、コムビナート」ノ特殊製鋼及其他諸工場、「アルミニユーム」工場及「ドネプロペトロフスク」ノ各工場及「クリウオイ、ログ」ノ鐵鑛山ニ供給セラル

露及政府ノ監察機關ハ五月下旬「ライオン」發電所ノ能力利用方ニ關シ決定アナス處アリタルカ右ニ依レハ一九三一年中前年ニ比シ發電量ハ四セ%ヲ、所定ノ平均能力使用時間ハ五%ヲ增加シタルカ多

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

數發電所ノ新能力ノ經營及熱練不充分ニシテ其結果所定能力ノ利用率ハ平均四九%ニシテアル發電所ニ於テハ二〇%ナリ右ノ根本原因ハ大機械及新設備ニ習熟セス送電線及變電所ノ建築ノ遲延、所内各機械相互間ノ能力ノ開キ大ニシテ相應セス能力ノ有効率ノ低タ又蒸汽力ノ弱キ等ナリ

依テ(一)本夏中ニ發電所及送電線ノ根本的設備ノ大修繕ヲ行ヒ(二)發電所能力ノ有効率ヲ昨年ノ四二%、本年豫定ノ四五%ヲ年末迄ニ五〇%ニ至ラシムルヲ期シ「モーター」ノ取換ヲナシ(三)燃料供給ヲ改善シ泥炭ノ完成燃燒法ヲ攻究シ(四)汽罐ノ缺點ヲ補正シ灰分除去法ヲ研究シ(五)調節安全計ノ取付ケ(六)經理法ヲ改善スル等ヲ夫々關係機關ニ命シタリ

三、林業

本年林業ニ關スル統制數字ハ投資額ハ昨年ノ三億三千萬留ニ對シ二九%增ノ四億三千萬留、其生產額ハ前年ニ比シ二七%增加ノ豫定ナリ

本年第一期ニ於ケル林業部所管ノ林業生產高ハ八億八千二百三十萬留ニシテ前年同期ニ比シ二三%ヲ增加セルノミナリ

就中伐採ニ就テハ七月十一日付實行委員會ノ決定ニ依ルニ本年第一期中伐採ノ機械化合理化及其他ノ施設ニ對シ一億四千二百萬留ヲ投

E-0286

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

シ林業者所有運送馬車ハ一九三一年ノ四萬五千頭ヨリ十一萬頭ニ增加シ常從業勞働者ハ昨年ノ三萬五千人ヨリ六萬人ニ增シ之ニ依リ勞働生產力ハ三割ノ增加ヲナスベキ筈ナルニ其實績ハ昨年ト同程度ニアリ第一期ノ伐採「プラン」ハ六八、三%、林業部所管國營ニ在リテハセ、三%ノ實行ヲ見タルノミナリ右原因ハ伐採機關ノ怠慢ニ依ルモノニシテ就中勞働者トシテ「コルホズ」員ノ組織的募集ヲ行ハス勞働者ノ文化的物質的待遇ノ改善ヲ圖ラサリシ結果其出入移動ヲ激シクシ機械化ハ本年三月十五日現有「トラクター」六八六臺中使用セルハ四四四臺、輕便鐵道ハ二四二粁ノ中九〇粁、架空索道ハ三二粁ノ中三月一日現在八粁ニシテ甚タ微弱之カ爲メ第一期機械ニ依ル撤出「プラン」ノ實行ハ三九%ナリ而シテ自用運送馬車ノ所用率ハ

一、二兩月ハ五割、三月ハ六割ナリシト

第二期四月ニ入リ林業ノ生產ハ激減シ林業部所管國營事業ニ付テ見ルニ其生產額ハ三月ノ約三分ノ一ナリ昨年四月ヨリ一五、八%減少ニテ五月ハ更ニ減退セリ

第二期ノ林業ノ重ナルハ木材ノ搬出ナルカ四月初旬各河川ノ解氷ニ依リ木材ノ筏流開始セラレタル處四月十日ニ於ケル狀態ハ伐ニ組ム爲メ出廻ル木材一億一千七百萬立方米ノ「プラン」ニ對シ七千四百萬立方米即チ六、二%ニシテ解氷ト共ニ直ニ流出セシムヘキ多期間ノ筏組ハ四月十日千二百五十萬立方米ノ「プラン」ニ對シ六百四十萬立方米即チ五一%ナリキ而シテ之ニ從事スル勞働者ハ組織的ニ募集セサリシ結果林業最盛季節ニ入用ノ五十六萬八千人ニ對シ契約濟

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ノモノ二十七萬三千人ナルカ四月十日現場ニ在ル勞働者ハ必要人員ノ五六%ノ六萬七千人ナリ而シテ筏組立及流出ノ機械化ハ機械ノ部分品不足ノ爲メ用ヲ爲サヽルモノ多ク又勞働者ニ對スル食料品及其他必需日用品ノ供給ハ勞働國防會議ノ特別命令アリタルニ不拘不良ニシテ勞働者ノ移動及能率ノ低下ヲ來シタリ

斯ル狀態ニテ開始セル林業ハ林業部所管ノ合同及「トラスト」關係ノ第二期「プラン」ハ伐採千八百萬立方米、搬出二千六百萬立方米ニ對シ五月末現在伐採五一、二%、搬出三四、八%、筏流ハ航行開始ヨリ五月末迄六千萬立方米ノ「プラン」ニ對シ約四千七百萬立方米即チ七八、三%ヲ實行シ上半期ニ於テ搬出六九、六%、筏流七八%ヲ實行シタルカ多數ノ木材ハ未搬出ノ儘林地ニ殘サレタリ

而シテ製材量ハ上半期「プラン」ハ四%ヲ遂行シタルカ一般ニ林業ノ不振ハ冒頭ニ掲ケタル林業部生產額ノ減退ニ依リ知ラルヘク其影響ハ蓄積及工業生產ニモ及ヒタリ右ノ原因ハ主トシテ勞働者ノ不足ニシテ上記ノ三點ニ歸ス

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三、輕工業

本年輕工業生産高八百一億九千一百萬留ニシテ前年ニ比シ二七、二%増ノ豫定ナル處上半期ノ輕工業生産高ハ四十二億留ニシテ昨年同期ニ比シ一六%ヲ増加セルカ上半期「プラン」ノ八九%、内第一期八九、九%、第二期九〇%、年「プラン」ノ四六、六%ヲ遂行スヘキ處ヲ四一、八%ヲ實行シ約四億五千萬留ノ不足ヲ見タリ

輕工業中重ナル種類ノ生産高ヲ示セハ上半期ノ分左ノ如シ

	單位	生産高	對年プラン %	内第一期生産高
紡績	千噸	一六、五	四六、五	、、、
綿布	百萬米	一、二五七、二	四六、五	六二四、四
毛織物	同		四七、六	四五、七	三三、二
製靴	百萬足	三六、三	、、、	一八、一
麻布	、	、、、	四〇、四	、、、
麻袋	、	、、、	三八、一	、、、

輕工業ノ生産計畫遂行不能ハ原料カ内國産ノミトナリ其品質下等ナル爲メ從來ノ機械設備ヲ改ムル必要ヲ生シ勞力モ不足ニシテ加フル工場内ノ計畫及勞働者ニ對スル給養不良ニ原因ス

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

其製品ハ不合格品多タ原價ハ低下ノ豫定ニ反シ五、二%增加セリ

四、食品工業

供給部所管工業ノ生產高ハ第一期十三億二千七百萬留ニシテ前年同期ニ比シ九、二%增加ナリシ處第二期ニ入リ逐月生產減退シ五、六兩月ハ前年同月ヨリモ劣リ第二期合計九億六千二百萬留ニシテ上半期二十二億八千八百萬留ニシテ前年同期ニ比シ六、一%ノ增加ナリ本年ノ供給部工業生產豫定額ハ昨年ノ五十一億留ニ對シ三六%增ノ計畫ナルカ右上半期ノ成績ハ遠ク豫定ニ及ハサルコトヲ示シツヽアリ

上半期ニ於ケル供給部所管工業中鹽ノ生產ハ「プラン」ノ五五、三%ニシテ前年同期ノ七六、二%ニ當リ漁獲高ハ「プラン」ノ六一、八%ニシテ一千萬噸ノ豫定不足ヲ來シ前年同期ノ八五、四%ナリト

鑛詰ハ五ケ月間ニテ豫定ヨリ五千萬個不足ナルカ前年同期ニ比シ二百萬個多シ然シ重ナル鑛詰製造地方ハ執レモ昨年ヨリ製造減少セリ

	一九三二年	前年同期
	千個	千個
タリミヤ	七二一〇	一〇、三二三
ダゲスタン	五、四五〇	六、〇四九
北高架索	九、五五二	一四、六二一
計	一二、〇一二	三〇、九九三

右被產ノ原因ハ第一ニ原料ノ不足ニシテ五ケ月間ニ內ハ一一、七五〇

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

噸ヲ要スル處供給量ハ五〇九五噸、魚類ハ二万三九五噸ニ對シ一二、七五〇噸ナリ次ニ鑛用「ブリキ」ハ第一期所要量一六、六五八噸ニ對シ供給高八二〇〇噸、第二期一五一七五噸ニ對シ五一六七噸ナリ

其他ニ「バタ」製造ハ出乳量ノ減少、畜種不良ノ爲メ及地方販賣等ノ爲メ牛乳ノ供給不良ナルカ如キ又澱粉ハ運輸不良ノ爲メ、「マカロニ」ハ包裝用品不足ノ爲メ、「マホルカ」煙草ハ機械破壞ノ爲メ製造豫定高ニ達セス製粉業ニ於テハ包裝不良ニテ積卸ノ際ノコボレハ全國ニテ毎月製粉一萬七千噸、穀物七萬噸、穀物ノ保管不良ニテ倉庫ニテ腐敗スルモノ十六萬噸ニ上ルト云フ

砂糖ハ本春ヨリ極度ニ缺乏シ新作原料ノ出廻ヲ待ツノミナルカ其工場ノ大修繕ノ如キ建築材料ノ不足其他ノ爲メ六月十五日迄ニ豫定ノ

二二%ノ進捗ヲ見タルノミナリト

好成績ヲ示セルモノトシテ植物油ノ製造高カ前年同期ニ比シ七一、三%、「マルガリン」カ五〇%增加セル等ナリ

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第三、運輸

本年上半期ノ運輸狀態ハ昨年同期ニ比シ成績良好ニシテ「プラン」ノ實行率ハ鐵道河川共八割臺ナルカ海運ハ七割臺ナリ

鐵道運輸ハ年初ヨリ逐月改善向上シタルカ五月ヲ頂點トシテ下リ六月ノ一日平均積出貨車數ハ昨年ヨリ劣リ第三期ニ入リ退勢ヲ續ケ居レリ

鐵道ニ於テハ建築工事極メテ不良ニシテ進捗セス

一、鐵道運輸

△ 輸送量

本年上半期鐵道ノ輸送スヘキ貨物ハ一億五千八百萬噸ノ豫定ニ對シ實績ハ一億三千七百四十萬噸即チ八七六%ニシテ前年同期ノ一億一千四百四十萬噸ニ比シ一五八%ノ增加ニシテ「プラン」實行率モ前年同期ノ七九%ニ比シ向上セリ

右ノ内第一期輸送貨物ハ六千三百三十萬噸ニシテ「プラン」ノ八六%ナルカ前年同期ニ比シ三〇%ノ增加ナリ第二期ハ七千百四十萬噸ニシテ「プラン」ノ七千九百萬噸ニ對シ八九%、前年同期ニ比シ約

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一四%増ナリ

未發送滯貨ハ年初六萬五千三百車ナリシカ四月一日一萬七千車、七月一日ニハ九千六百車ニ減少セリ

「ウクライナ」ニ於ケル鐵道貨物運送高ハ第一期ハ「プラン」ノ九五%ヲ實行シ前年同期ニ對シ四五%増ナリシカ上半期ノ増率ハ一七八%トナレリ

△ 輸送貨物數量

	百萬噸	對プラン	對前月%	對前年同期
第一期	六六、五	八六%	、、、	一三〇、〇%
四月	二三、七	、、	一〇八、六	一一〇、六%
五月	、、、	、、	、、、	一一九、三%

貨物ノ一日平均積出高ハ上半期最低六萬九百車ノ豫定ナル處年初ヨリ五月上旬迄ハ漸次増加シ五月十三日六萬三百車ニ達シタルカ中旬ヨリ再ヒ下降シ上半期平均五萬二千一百車卽チ「プラン」ノ八五、五%トナリ六月ノ如キハ前年同期ヨリモ減少セリ卽チ各月貨物ノ一日平均積出貨車數ハ左ノ如シ

	一九三二年	對プラン%	一九三一年	對前年同期%
第一期	五〇、二〇〇	八四、〇		一二六、三
四月	五三、七六一	八七、〇	四九、三三〇	一〇九、〇
五月	五五、五八	九〇、〇	五一、一二五	一〇七、四
六月	五三、四九六	八八、〇	五四、六三五	九七、八
第二期	五四、二〇五	八九、〇		

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

上半期　五二、一〇〇　八五、五　一一三、三

鐵道輸送貨物ノ重ナルモノ、內石炭ハ上半期「プログラム」ノ七八%ヲ輸送シタルカ其輸送高ハ逐月減退シ一日平均積出貨車數四月九千五百車、五月八千八百車、六月八千一百車トナリ「ドンバス」ニハ採炭カ逐月減退セルニ不拘未發送ノ滯貨ノ高漸增スル狀況ナリ

石油ハ第一期九二、六%、第二期八三、六%、上半期八七%、薪ハ第一期八二%ナリシニ六月ハ六二%ニ減シ夏期貨物出廻閑散期ニ此等燃料ヲ豫定通リ輸送シ得サリシ結果ハ今後良カラサル影響ヲ來スヘタ又食料品ハ七三%ヲ輸送セルノミナリ

輸送不足ノ責ハ荷主側ニモアリ積出不能貨車數ノ內荷主側カ期ニ荷物ヲ回附セサリシモノ一月ヨリ三月迄ハ九萬六千乃至八千貨車ナリ

シカ六月ニハ二十萬一千車ニ達セリ然レ共鐵道側ノ責ハ之ヨリ更ニ大ナリトス

△　列車及車輛運轉成績

列車及車輛ノ運轉狀態ハ大ニ改善シ左ノ成績ヲ見タリ

走行量數　第二期豫定

	三月	四月	五月
貨物用機關車	一八八	一六一	一六七
同　三一年		一五〇	一五八
旅客用機關車		二四六	二四六
同　三一年		二二六	二三二
貨車	一二三	九五	一〇二
同　三一年		八一	九二

		一〇八
		一〇四

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

貨物列車ノ商業速力	一五、五	一三、四	一四、一	一四、九
同　三一年		一一、六	一二、九	一三、九

△　車輛ノ新造

上半期中鐵道カ工業ヨリ引渡ヲ受ケタル車輛左ノ如シ

		對プラン	前年同期	%
機關車	四五二輛	七七、三%	三八七輛	一一七、〇
客車	四九九	六一、二		九〇、六
貨車	六一九四		八二二五	
内冷藏車	一、九五二		二六九	
タンタ	九八六		一三九	

ホッパー（二軸）	八五三	四〇、〇	八五
同　（四軸）	三一四	七〇、〇	—	—

右ノ内機關車ハ貨物列車用四七八輛ノ豫定ニ對シ三七九輛、旅客列車用ハ一〇九輛ノ豫定ニ對シ七五輛ニシテ機關車製造工場ノ成績ハ「ルガンスキイ」九三%、「プリヤンスク」八七%、「ソルモウオ」七八%、「コムナ」七〇%、「ハリコフ」五六%ニシテ「ハリコフ」工場ノ不成績ハ「ウクライナ」ノ農工業狀態ノ不良ト共ニ注意スヘキ點ナリ

客車ノ内「ツベリ」工場ハ硬車三七五輛ノ豫定ニ對シ二六六輛ヲ製造セリ

給油「タンタ」車ハ「オデツサ」「ニコラエフ」「プリヤンスク」

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ノ各工場共ニ「プラン」ノ半分ニシテ無蓋貨車ニ付テハ「ウスチ、カタアスキ」工場ノ如キ二千車ノ「プログラム」ニ對シ二七五車ヲ製造シタルノミ

尙豫備品ノ製造ハ上半期ノ「プラン」ニ對シ六四%ヲ實行セリ

「レール」ハ註文額ヨリ四萬噸少ナシ

△ 保線

保線工事ハ鐵道運輸ニ比シテ更ニ不成績ニシテ六月末日ニ於ケル線路ノ大修繕ハ七〇%、「レール」ノ取換ハ四七%、枕木ノ附加取換ハ二六七%、「バラスト」ノ取換ハ二五、三%ヲ實行セルノミ自働連結器ノ取付ハ區間ニ依リ五六―九七%ナリ

△ 新線工事

新線ノ敷設ハ上半期ノ「プラン」ニ對シ一五五%ニシテ本年作業開始豫定線ハ一七五%、複線ノ建築ハ一一、二%、停車場ノ擴張改造ハ一二、五%ニテ極メテ不成績ナリ

△ 旅客

輸送旅客ハ第一期ハ一億九千七百萬人卽チ百五十億人粁ニシテ「プラン」ノ一二〇%、前年同期ニ比シ四四%ノ增加ヲ見タリ第二期ハ二億三千萬人、百九十億人粁ノ豫定ニ對シ左ノ成績ナリ

	有料旅客數（百萬人）	十億人粁
三一年	三二年	三一年

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三月	六七五	四七五	五九 四三
四月	七三	五〇八	五八 四四
五月	〃〃	〃〃	〃〃

上半期ノ輸送旅客ハ四億五千百六十萬人ニシテ「プラン」ニ對シ一五七%增、昨年同期ニ比シ四四七%增加セリ

依テ貨物及旅客ハ合シテ千二百八十七億噸粁ニシテ前年同期ニ比リ二七三%增加セル次第ナリ

△「ドンバス」ー「モスクワ」幹線ノ新設

四月二十九日付内閣ノ決定ヲ以テ「ウクライナ」「ドンバス」ノ炭業及冶金業ノ發展並ニ中央諸地方工場ニ對スル燃料及金屬ノ供給ヲ保障スル爲

一、「ドンバス」ー「モスクワ」間ニ複線ノ鐵道幹線ノ敷設ニ即時着手スヘク之カ爲メ交通部ハ

イ「ネスベタイ」ー「ワルイキ」間三六五粁ニ新線ヲ建築シ一九三三年八月一日迄ニ完成シ

ロ現在ノ諸線ノ根本的改造ヲナシ「ワルイキ」ー「オジエレリエ」兩驛間六九五粁ヲ複線トシ一九三三年七月一日迄ニ完成シ

ハ「オジエレリエ」ー「モスクワ」間一三〇粁ヲ複線トシ

ニ「カシル」市附近「オカ」河ニ鐵橋ヲ架シ

三、「シテポフ」地方ヨリ新設線ニ送炭スル爲メ「セメイキノ」「コルパコヴオ」間ニ鐵道ヲ新設ス

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三、右幹線ハ強力機關車ヲ同一重量ニテ全線ヲ通行シ得ル樣ニシ速成ヲ圖ルコト

等ヲ公布シタリ

右工事中地形工事ハ六月一日迄ニ五百五十萬立方米ヲナス豫定ノ處六月十五日迄ニ約二百五十萬立方米ヲ進捗セシメ工事運々タリ

二、河川運輸

河川ニ依ル貨物運輸量ハ一九三〇年三千六百七十萬噸、一九三一年五千百四十萬噸ニシテ本年ハ六千五百九十萬噸卽チ昨年ニ比シ二八

五%增ノ豫定ナルカ航行開始以來四、五兩月ハ「ブラン」ノ(五五、七%、六月七二、六%ニシテ六月末迄ニ年「ブラン」ノ四〇%ヲ輸送スヘキ豫定ニ對シ六月二十日迄ニ千四百三十三萬二千噸卽チ「ブラン」ノ二一、七%ヲ輸送シ七月ハ「ブラン」ノ八九、二%ニシテ七月末迄ニ年「ブラン」ノ四二、一%ヲ輸送セリ

地方別ニスレハ「ウオルガ」ハ昨年同期ニ比シ二三、四%、「モスクワ、オカ」河ハ一四、七%、「ドネプル」河ハ五五、二%增加セリ

主要貨物中石油ハ「ブラン」ニ對シ五月八二、五%、六月九〇%、七月七三、四%、木材ハ六月ノ「ブラン」ハ船舶ニ依ルモノハ八一、一%後六六、七%ナリ

右不成績ノ原因ハ(一)破損ノ頻繁ニシテ七月末迄ニ昨年同期ニ比シ三

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

制餘、「ウオルガ」ニ於テハ八六%増加セリ其内勞働紀律ノ不良ニ依ル破損件數七月一日迄ニ昨年ハ七二九件アリタルニ本年ハ一、〇八九件トナリ(二)修繕不良ニシテ再修繕ノモノ多ク(三)修繕ノ時日長引キ(四)荷主側カ約束通リ荷物ヲ差廻ハサヽル等ナリ

黑海運

本年ノ船舶運送豫定計畫ハ二千百二十萬噸ニシテ昨年ノ實際輸送高ヨリ五三%多ク黑海ノミニテ四百十五萬噸ノ豫定ナリ

第一期ノ實績ハ水運部機關雜誌所報ニ依ルニ左ノ如シ（單位千噸）

△海港ノ荷扱高

海	豫定	實績	對プラン%	對前年同期
バルチック	一一三	一七三、五	一五三、四	八八、三%
ムルマン	三五二	二九七、四	八四、五	一三九、八
アゾフ	一五〇	一二〇、二	八〇、一	六一、八
カスピイ	二、二〇〇	一、六〇五、〇	七二、七	一〇一、一
黑海	四、七二〇	三、九八九、七	八四、五	九五、四
極東	一、二三〇	五四五、九	四四、四	八四、〇
計	八、七八〇	六、七四五、九	七六、七	九五、八

△船舶ノ輸送量

北海	一八九

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

バルチック	二二八	一五四、二	六七、六	九五、四
黒海	八三二、五	六八六、〇	八二、四	一三四、八
アゾフ	一二〇	一〇〇、九	八四、一	一八〇、三
カスピイ	一、〇八四	八二七、〇	八〇、〇	一〇五、一
太平洋	二九八	九七、六	三二、八	一一七、二
計	二、七〇一、五	一、九五〇、四	七二、二	一一六、六

海港荷扱高ニ付テハ「バルチック」海ニ於テハ「レニングラード」ハ一月ノミ作業スル豫定ノ處二月モ作業シ之カ爲メ「ムルマン」ノ荷物ヲ吸收シ「アゾフ」海ハ結氷ノ爲メ、「カスピイ」海ハ大宗貨物タル石油ノ貯藏注入設備不足ニシテ之カ爲メ船舶カ無益ニ停繫シ太平洋ニ於テハ碎氷船ノ不足其他ノ原因アリ黒海ニ於テハ貨物ノ出廻

悪シキ等ノ原因ニテ豫定計畫ヲ實行スルヲ得サリキ

船舶ノ貨物輸送「プラン」實行不能ノ原因ハ荷物ノ出廻リ悪ク、港ノ荷役及港ト船舶間ノ關係不良、船舶破損多ク修繕停繫期間ノ長引ク等ナリ

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第四　供給及貿易

一、「コルホズ」商業

本春來「ソ」聯邦都鄙各地ニ於ケル食料品ハ極度ニ缺乏シ國家機關及消費組合ノ手ヲ以テシテハ充分ニ之ヲ供給スル能ハサルノ狀態ニ陷リタルト他方農民ハ社會化ノ新事態ニ於テ勞作ニ依リ受得ヘキ結果少ナク日用品ノ供給モ不良ナル等ノ爲メ勞作ヲ欲セス其結果收穫

率ノ減少ヲ來シタルモ特約ニ依ル義務履行及穀物買付計畫遂行ニ依リ其手ニ殘ル農產物極少ニテ遂ニ本春ノ農民ノ食糧難迄出現シ農業ノ樂廻農村ノ不況其極ニ達セルヲ以テ之カ對策トシテ所謂「コルホズ」商業ヲ許可スルニ至レリ

右ハ特約及買付計畫ニ依リ定メラレタル農產物ヲ國家ニ納入スル義務ヲ完了セル「コルホズ」「コルホズニキ」及個人農家ハ其剩餘農產物ヲ「バザル」其他特定ノ場所ニ於テ販賣スルコトヲ許シ尙其剩餘分ヲ增加スル爲メ特約及買付計畫ニ依ル納入量ヲ二割乃至三割方ヲ輕減シ且之ヲ奬勵スル爲メ幾多ノ特典ヲ與フルコトヽセリ

依テ各種農產物ノ買付計畫及特約ニ依ル納入量減少及特典ヲ示セハ左ノ如シ

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(一) 穀物

五月六日付政府及黨本部ノ一九三二年穀物買付計畫及穀物「コルホズ」商業發達ニ關スル決定ニ依ルモノニシテ同決定ハ

「一、「コルホズ」及「ソフホズ」ノ「システム」ハ個人經濟ノ「システム」ニ打克チ村落ニ於ケル「クラキ」分子ハ粉碎セラレタルニ依リ二年間ニ穀物農業ノ發達、作付地積ノ擴大及粒穀ノ總生產高ノ增大ヲ來シ一九二八年ニハ個人農家ヲ基礎トシ「ガルンツ」稅共六億六千萬布度(一千一百萬噸)ヲ買上タルニ一九三〇年ニハ十三億五千萬布度(二千二百五十萬噸)、一九三一年ニハ十四億布度ヲ國家ニ於テ買上クルヲ得タリ右成功ハ「コルホズ」カ合同セル大企業トシテ農業機械「トラクター」貸

下所ヲ通シテ「トラクター」及機械ヲ應用シ最モ良ク利用シ作付地ヲ擴大シ農業技術ヲ改良シ得又「ソフホズ」ハ年々增加スル穀物ヲ國家ノ爲メニ保障スル穀物ノ大工場トナレルヲ以テナリ

此等黨ノ政策實現ノ爲メ國ハ穀物ノ恐慌ヲ脫シ昨年東部各地學害ニ依ル困難ヲ從來ノ學害甚タシカリシ時ヨリ大ニ容易ニ克服シツヽアリ

二、之ト共ニ工業ハ五年計畫實現ノ成功ニ依リ「コルホズ」ノ生產上ノ需要ヲ充ス爲メ及村落勤勞民ノ需要ノ工業品製造ノ可能性モ益々增進シツヽアリ斯ク工業製品ト穀物生產ノ增加ニ從ヒ「コルホズ」商業發達ノ可能性モ增シ農產物ヲ都市ニ供給スル

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

重要ナル補助的資源タルニ至レリ斯ル狀態ニ於テ「ソウエト」政權ハ國家ノ穀物買付ト共ニ市民ニ對スル供給手段トシテ他ノ方法「コルホズ」及其會員自身ノ穀物商業ノ方法ヲ實驗スルコトヲ得タリ依テ都鄙間ノ貨物回轉ヲ益々發達セシメ市民ニ對スル供給ヲ益々改善スル爲メ此二方法ヲ併行シ農民都穀物ノ國家買上ヲ減少シ「ソフホズ」ニ付テ之ヲ增シ「コルホズ」ノ穀物商業ヲ發達セシメントス」

ト前提シ「コルホズ」及個人農家部ノ本年產穀買上量ヲ昨年ノ「プラン」ノ十三億六千七百萬布度ノ代リニ平作ノ場合「ガルンツエ」稅ヲ除キ十一億三百萬布度ト定メ卽チ二億六千四百萬布度ヲ減シ（就中「ウクライナ」ハ昨年ノ四三四百萬布度ニ對シ三五六百萬布度、

北高架索ハ一五四百萬布度ニ對シ一三六百萬布度トセリ）「ソフホズ」ハ昨年國家ニ引渡シタル一億八百萬布度ノ代リニ一億五千百萬布度ニ增シ買付期限ヲ本年末トシ種子ノ集積ヲ一月十五日ト定メ一月十五日以後賣上及種子ノ集積ヲ完了セル「コルホズ」及其會員ハ支障ナク穀物ヲ市場及其「コルホズ」賣場ニ於テ販賣スルコトヲ許シ地方當局ハ之ニ對シ便宜ヲ與フルト共ニ個人商人及仲買投機者ノ取締ヲ命シタリ

(二) 肉

家畜ノ買上及肉商業ニ關シテ穀物ト同樣ニ五月十日付政府及黨本部決定ヲ以テ(一)本年第三期ノ「コルホズ」「コルホズニキ」及個人農家ヨリスル家畜買上「プラン」ヲ半減シ最ニ定メタル生肉百四十四

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

萬四千噸ノ代リニ七十一萬六千噸ト定メ之ト同時ニ「ソフホズ」ノ引渡「プラン」ハ昨年ノ實際引渡額生肉九萬噸ヲ十三萬八千噸トシ(一)村落住民ノ自家用及販賣用ノ家畜屠殺ニ關スル一切ノ制限ヲ撤廢シ(二)家畜賣上「プラン」ヲ遲滯ナク履行シタル「コルホズ」「コルホズニキ」及個人農家ハ牛、豚、羊、鳥及其肉ヲ市場及「コルホズ」賣場ニ於テ自由ニ販賣スルコトヲ許セリ

(三) 野菜、果物、馬鈴薯、向日葵、米、豆類、大豆等

「コルホズ」商業ノ發達ヲ圖ル爲メ六月七日付內閣決定ヲ以テ特約ニ依ル「コルホズ」「コルホズニキ」及個人農家ノ產物納入義務ヲ減シ(一)野菜ハ四百四十萬噸ヲ百七十五萬噸トシ(二)種子物ハ二十八萬三千噸ヲ十七萬噸トシ(三)葡萄ハ三萬七千噸ヲ一萬二千噸トシ其數量

ヲ地方別ニ定メタルカ野菜ニ付テハ「ウクライナ」ハ約百四十四萬噸ヲ四十五萬噸ニ、北高架索地方ハ四十八萬三千噸ヲ二十二萬噸ニ、「カザクスタン」ハ約九萬噸ヨリ一萬噸ニ、中亞ハ十八萬二千噸ヲ四萬五千噸ニ減シ是等目下農業ノ不振、農村ノ不況甚タシキ主タル農耕地方ニ於テ著シク輕減セリ

同樣ニ馬鈴薯ニ付テモ六月十四日付內閣決定ヲ以テ當初納入特約ノ千八十五萬二千噸ヲ六百九十萬噸ニ減シタリ重ナル地方別ニ付テ見レハ「ウクライナ」ハ二百十三萬二千噸ヨリ九十二萬噸ニ、北高架索ハ二十八萬四千噸ヨリ十萬噸ニ、中亞ハ十四萬噸ヨリ三萬五千噸ニ減セラレタリ

同樣ニ七月三日付內閣決定ヲ以テ向日葵ノ播種者ニ對シ特約ニ依ル

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

義務的納入量ヲ總收穫高ノ八〇％ノ代リニ六〇％トシ此義務ヲ履行セルモノハ一月十五日ヨリ其餘分ヲ自由ニ製造又ハ賣却スルコトヲ許セリ

米、豆類、「ウイキ」及大豆ノ播種者ニ對シテモ同樣ニ七月四日付內閣決定ヲ以テ特約ニ依ル義務的納入量ヲ㈠米ハ收穫高ノ八〇％ノ代リニ六〇％、後高架索ニ於テハ五〇％ニ㈡豆類ハ五〇％ノ代リニ四〇％ニ㈢大豆ハ八〇％ノ代リニ六〇％ニ㈣「ウイキ」ハ七〇％ノ代リニ五〇％ニ減少シ右義務履行シ必要ノ種子ヲ貯藏スルニ於テハ其餘分ヲ自由ニ販賣スルヲ許シタリ

㈤ 麻、煙草

麻栽培者ニ對シテモ同樣ニ六月五日付內閣決定ヲ以テ雄麻（實ヲ持タサルモノ）ノ收穫全部ハ特約ヲ爲サス栽培者ノ自由處分ニ任セ特約ニ依リ定メタル納入纖維及種子ノ量ハ三割ヲ減少シ「ウオルガ」中流地方、西部地方、中央黑土地方、「キエフ」州「モスクワ」州、「ニイジエゴロド」地方、白露及「タタリヤ」等ニ於テ作付地積ノ三一％ニ麻ヲ作付シタル「ライオン」及「コルホズ」ハ其穀物買付ヲ免スルコトヽセリ

煙草及「マホルカ」栽培者ニ對シテモ同樣ニ七月三日付內閣決定ヲ以テ特約ニ依リ定メタル右煙草ノ植付耕作及納入義務ヲ全部完了セルモノハ穀物買付手續ニ依ル穀物ノ納付ヲ煙草一「ヘクタル」ニ付穀物作付地五「ヘクタル」、「マホルカ」一「ヘクタル」ハ三「ヘ

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

クタル」ノ計算ニテ之ヲ免スルコトヽセリ

(五) 首都附近ノ「コルホズ」商業ノ特例

五月五日付政府決定ヲ以テ(一)「モスクワ」及「レニングラード」ヨリ百粁ノ地帶ニ在ル「コルホズ」及「コルホズ」商品農場ハ其生産物ヲ「コオペラチーフ」値段ヨリ少シク高價ニテ賣ルコトヲ許シ(二)特約ニ依ル賣上量ヲ蔬菜及牛乳ハ二割其他ハ五割ヲ減少シ(三)之カ義務ヲ履行セサルモノハ右商業ヲ許サヽルコトヽセリ

(六) 租税ノ減免

五月二十日付中央執行委員會及内閣ノ決定ヲ以テ「コルホズ」商業發達ノ爲メ(一)「バザル」、廣場、鐵道驛、埠頭ニ於テ「ベン」、肉

鳥、卵、乳産物、野菜、果物等ノ自家農産物ヲ販賣スル「コルホズ」「コルホズニキ」及個人勤勞農民ニ對スル共和國及地方税ハ一切之ヲ免シ(二)「バザル」ノ掃除料トシテ一日ニ付馬車一臺一留、賣場ニ於テ手渡ニ賣ルトキハ二十哥、牛一頭一留、小家畜一頭五十哥以下ノ地方税ヲ其都度徴收スルコトヲ許シ(三)地方「ソウエト」ハ賣場ノ借料ヲ最少限度ニ引下ケ(四)本商業ノ收入ニ對シテハ「コルホズ」及「コルホズニキ」ハ農業税ヲ課セス個人農民ハ本收入ノ三〇%以下ニ對シテ課税スヘク(五)本商業ノ爲メ「コルホズ」カ直接ニ開設スル店及賣場ニ對シテハ總賣上高ノ三%ノ低率ニテ課税ス(六)「コルホズ」「コルホズニキ」及農民ノ商業ノ合同及聯合ノ開設スル店及賣場ハ「コオペラチーフ」ト同一ノ納税特典ヲ有ス(七)「コルホズ」「コルホズニキ」及農民ノ商業ノ

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

賣値ハ市場ノ出來値ニ「コルホズ」合同ニ付テハ國營商店ノ平均商業値段以下トス(八)個人商人ノ開店ヲ許サス仲介及投機者ヲ根絶ス等ヲ定メタリ

(七) 短期信用

五月二十二日付聯邦國家銀行ノ決定ヲ以テ「コルホズ」商業ヲ行フ爲メ「コルホズ」カ店及賣場ノ設備、容物ノ買入、他「コルホズ」ヨリ農産物ノ買入、運賃等ニ資金ヲ要スルトキハ國家ニ對スル納入ノ義務ヲ履行セルコトヲ條件トシテ第二期ニ一千萬留ノ範圍内ニ於テ短期ノ貸付ヲナスコト、セリ

(八) 農務部及「コルホズツエントル」ノ指令

五月三十日聯邦農務部參與會及「コルホズツエントル」本部ハ「コルホズ」商業ニ關シ各共和國農務部及「コルホズ」聯合ニ對シ前記黨及政府ノ決定ニ關シ員ヲ地方ニ派シ(一)本法ノ趣旨ヲ説明シ本件商品ノ增加ヲ圖ル爲メ農業生産增加ノ方法ヲ講セシメ(二)本商業ノ特典ニ關スル規定ノ實行ヲ監督シ(三)取扱商品ノ仕入ハ合意ニ基クコトトシ(四)「コルホズツエントル」ハ近キ將來ニ於テ商店一、〇五〇ヲ開設スヘク(五)「コルホズ」所有ノ勞働馬、基礎タル家畜其他ノ基礎的資本及國家ニ納入スヘキ物品ヲ賣却セサル樣注意シ(六)本商業ニ舊商人、仲介人及「クラキ」ノ介入ヲ許容セサラシメ(七)本商業ニ依ル收入金ハ商業税、商業取扱高税並ニ不可分賃金積立金(一〇―一五%)ヲ控除シタル殘部ヲ一ケ月ニ一回以上其局ニ當リタル「コルホズ」

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

員ニ分配スヘク(八)營業費ヲ最少限度ニ止メ(九)斯業ヲ奬勵保護シ且監督スヘキコト等ヲ農民ニ徹底セシムヘキ旨ヲ決定セリ

(九)「コルホズ」商業ノ實績

本商業ハ「ウクライナ」ニ於テハ五月二十九日、其他ニ於テモ五月末迄ニ開始セラレタル處之カ爲メ肉、「バタ」、卵其他相當ニ市場ニ出テ當時賣價モ少シク下落セルカ暫クシテ又騰貴シタリ右ハ農務部及「コルホズツエントル」カ特ニ注意スヘキ指令（第(七)項）カ行ハレサリシニ依ル

「オデツサ」州黨及政府監察機關ハ右「コルホズ」商業發展ノ障礙タル原因ヲ明カニシ(一)「コルホズ」機關ハ形式的態度ヲ持シ大衆ニ對シ本業ノ趣旨ヲ說明セス(二)州供給聯合ハ「コルホズ」員ノ爲メニ

工業製品供給ノ方法ヲ講セス(三)「コオペラチーフ」ハ其「バザル」ニ於ケル商店ニ農民向商品ヲ備ヘス(四)市役所ハ「バザル」ニ必要ノ設備ヲ怠リ(五)財務部當局ハ投機的商人取締ノ方法ヲ講セス(六)警察ハ仲買人ノ取締、「バザル」ノ衛生狀態ヲ顧ミス「バザル」ヨリ買手ヲ追出シ(七)「オデツサ」「ニコラエフ」其他ノ市役所ハ所要ノ方策ヲ講セス等ノ事項ヲ指摘シ責任者ヲ處分シタリ

二、村落ニ對スル日用品供給

日用品ノ缺乏カ殊ニ村落ニ於テ甚タシク其結果本春作付不成績ニシ

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

テ本夏收穫及農產物納入ニモ影響スル處大ナルヲ以テ豫定計畫以外ニ之等日用品ノ製造ヲ增加シ之ヲ村落ニ供給スルコトヽシ聯邦黨本部ハ六月中旬產業組合ノ製造スヘキ物品ノ計畫外追加分ヲ定メ第二期以降年末迄ニ「コツプ」四千百七十萬個、茶碗四百萬個、皿七百萬個、瀨戸物「コツプ」（手付）三百五十萬個、窓硝子四百萬方米毛織物ハ五月十五日迄ノ値段ニテ二千五百萬留、綿布五千三百萬留ヲ追加製出シ其他ニ嬰兒服用トシテ綿布二千五十萬米ヲ裁縫業ニ供給シ其八割ヲ村落ニ給シ製靴六千五百萬留、古直靴五十萬足其價格五百萬留ヲ增加シ其他「シユバ」、手袋、糸、既製服、麻、絹「メリヤス」製品ヲ作リ其五〇％以上ヲ後半期ニ村落ヘ發送スヘキ旨ヲ定メタリ

輕工業部命令ニ依レハ產業組合ノ第三期中計畫外追加製造スヘキ分ハ茶碗二百五十萬個、皿四百萬枚、瀨戸物手付茶碗二百萬個、窓硝子二百五十萬方米、毛織物千二百萬留、綿布三千萬留、製靴二千七百五十萬留、手袋五百萬留、糸四百萬留、既製服四千五百萬留、麻製品六百萬留、絹製品三百萬留、「メリヤス」三百二十萬留ニシテ之ハ全部村落ニ送付スヘキコトヽセリ

又產業組合本部ハ右指令ニ從ヒ本年末迄ニ金物、革製品、小間物、建築材料等二億二千五百萬留ヲ市場ニ出スコトヽセリ

△　日用品供給狀況

「エコノミチエスカヤ、ジイズニエ」所報ニ依レハ統制入品ノ發送計畫ハ六月二十日迄ニ都市九五％、村落ハ六四、八％ヲ實行セリ

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

綿布ノ送達計畫ハ都市六三、六％、村落六二、一％、糸ハ都市四一、七％村落二八、二％ニシテ又地方ニ依リ差異アリ必要ノ地方ニ少ナク然ラサル地方ニ過分ニ送達セラレタルモノモアリ

「ロシヤ」聯合政府經濟會議ノ決定ニ依レハ工業及產業組合ト六月十日現在ニテ六億九千八百萬留ヲ製造スルコト、ナリ居ル處其中村落ヘ發送セル高ハ僅ニ三六％ナリト

「ウクライナ」黨部モ六月下旬村落ニ日用品仕向ヲ强化スルノ具體的決定ヲナス處アリタリ

六月十九日內閣決定ハ地方機關ニ對シ農民用トシテ仕向クル貨物ヲ「コオペラチーフ」及各種配給所並ニ「ソフホズ」等ニ仕向クルコトヲ嚴禁セリ

石鹼ノ村落供給ニ關シ黨及政府監察部幹部會ノ七月初旬ノ決定ニ依レハ第二期中村落ヘ供給スヘキ石鹼ハ八、五二〇噸ノ豫定ニ對シ實際ハ四、九五五噸卽チ五九、三％、都市ヘハ六、〇〇〇噸供給「プラン」ニ對シ六、八六九噸卽チ一一四％ヲ供給セリ尙地方ニ依リテハ「ウクライナ」ハ都市ニ二二〇％ヲ、北高架索ハ一七九％ヲ、中亞ハ二三一％、村落ヘハ四〇％ヲ發送シ村落ヘ第一次的ニ發送スルノ主義ニ悖リ本品供給ノ組織ヲ破壞セリト

三、外國貿易ノ不振

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

稅關統計ニ依ルニ「ソ」聯邦外國輸出入額ハ一九二九年十八億四百萬留、出超額四千三百萬留ナリシカ一九三〇年ニハ輸出入合計額ハ二十億九千五百萬留ニ增加シタルモ「バランス」ハ入超二千二百萬留ヲ超ヘタリ一九三一年ハ世界物價ノ低落ニ依リ輸出入額ハ重量ハ前年ヨリ增加セルモ價格ハ十九億一千六百萬留トナリ入超ハ激增シテ二億九千四百萬留弱トナレリ

本年五ケ月ノ貿易ハ一月ハ輸出ハ昨年及一昨年ニ比シ價格ニ於テ減少セルモ其重量及輸入價格增加シ輸出入合計金額ニ於テハ昨年一月ニ比シ多額ナリシモ同月輸出入ノ「バランス」ハ近來ニ無キ入超ニシテ二月以來輸出入共其額ヲ減シタリ一月乃至五月ノ輸出入高ヲ前年ト比較セハ左ノ如シ

在オデッサ日本領事館

	輸出		輸入		計		出(+)入(−)超
	千噸	百萬留	千噸	百萬留	千噸	百萬留	百萬留
一九二九年	三、二八二	三二七、二	六四五	三一九、八	四、〇二七	六四七、〇	(+)七、三
一九三〇年	五、五八七	三八一、〇	一、一七六	四七三、七	六、七六三	八五四、七	(−)九二、六
一九三一年	六、五七二	三〇九、三	一、三二二	四四一、五	七、八九四	七五〇、八	(−)一三六、一
一九三二年	五、七三〇	二三五、七	七一五	三三五、八	六、四四五	五七一、五	(−)一〇〇、〇

即チ本年五ケ月間ノ外國貿易ハ一九三〇、三一年ノ兩年ニ比シ劣リ一九二九年ニ比シ輸入ハ多額ナルモ貿易ノ高及「バランス」ハ甚タ不良ナリ

五ケ月間ノ輸出入品中重ナルモノヽ、輸出入高左ノ如シ

在オデッサ日本領事館

E-0286

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

△輸出品

	一九三〇年		一九三一年		一九三二年	
	千噸	百萬留	千噸	百萬留	千噸	百萬留
穀物	七六二	四一、七	一、四一〇	四四、一	七四九	二三、九
石油類	一、九七七	六六、五	二、〇七二	五一、七	二、三二七	四二、六
材木類	一、〇二八	二八、四	一、〇三二	一九、三	九八二	一八、四
毛皮類	一	四〇、三	一	二六、四	一	二三、四
△輸入品						
機械類	五一	六二、五	五四	六七、五	一二四	一一四、五
農業機械	一一一	八六、六	一〇〇	九一、八	〇、四	〇、四
機械部分品	二二	三一、三	三〇	二八、八	二四	二七、八

在オデッサ日本領事館

D

鐵鋼類	二五三	二七、〇	四五七	四三、六	九八	一二、一
鐵鋼製品	四六	一八、四	九〇	三四、九	五二	二二、二
電氣機械類及附屬品	九	一九、四	七	一三、六	二五	三七、八

右輸入品中ニハ內國ニ於ケル生產增加セル爲メ外國ヨリノ輸入減少セルモノアリ農業機械類及鐵鋼類ノ如キ之ナリ

主要輸入國別左ノ如シ（單位百萬留）

		輸入總額			
			一九三一年	一九三二年	
英國	二五、七	四七、六	一三、〇	四一、〇	生產機械及設備品
獨逸	一三五、三	一四八、七	九〇、三	一二四、七	

在オデッサ日本領事館

D

E-0286

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

伊太利	八、七	一五、四	三、一	一二、九
米國	一三、五	一六、六	二四、三	一二、〇

米國ヨリノ輸入品中農業機械類ハ一九三一年五ケ月間ニ九千三百萬留、金輸入額ノ七一%ヲ占メタルカ本年同期ニハ六十三萬留卽チ三、八%ニ減シ米國ノ對「ソ」輸入ハ「ソ」聯邦ノ農業機械ノ製造ノ發達ニ從ヒ大打擊ヲ受ケタル次第ナリ

在オデッサ日本領事館

146

E-0286

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第五　財政

一、財務

イ　第一期財政成績

本年第一期ノ國民經濟ハ從來ヨリモ良好ナル成績ヲ示シタルカ實的ニハ量程ニ好カラス從テ財政上ニモ其影響ヲ及ホシタルカ財務部機

關新聞ノ報スル財務部調査課ノ材料ニ依ル第一期ノ財政成績左ノ如シ

△　歳入

第一期一般聯邦豫算ノ收入額ハ六十億三千萬留ニシテ年「プラン」ノ二二%、昨年同期ノ三、二三七百萬留（年「プラン」ノ一八、四%）ニ比シ甚タシク好成績ナリ

歳入科目中(一)最大ノ取扱高稅ハ三、五一七百萬留ノ「プラン」ニ對シ一〇四、八%ノ實收入アリ右ハ共和國及地方豫算委讓ノ新制度カ地方財務當局ヲ刺戟シ其徴稅ニ努力セルモノナリ

(二)運輸收入ハ六二三百萬留卽チ「プラン」ニ對シ一一三、三%ノ實收入アリ

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(三)重工業ハ其製造品ノ原價ヲ昨年ノ實際標準ヨリ四、五%低下セシムベキ豫定ノ處執レモ之カ低下ヲナサス製鐵ノ如キ却テ向上シ比較的成績良好ナル石油業ハ第一期九千八百萬留蓄積ノ「プラン」ニ對シ七千二百萬留、電氣工業ハ二千八百萬留ノ代リニ千八百萬留、「ゴム」工業ハ三千九百萬留ノ代リニ三千萬留ヲ蓄積セルニ止マリ結局重工業全體ニテ此項收入ハ「プラン」ヨリ五千三百萬留少ナシ輕工業ニ於テハ絹絲及映畫ハ「プラン」ノ遂行ヲナシタルカ綿業、麻業ハ執レモ不成績ナリ

(四)本年豫算ハ行政管理費一億留、本期二千五百萬留節約ノ豫定ナリシ處此節約ハ實行セラレス

(五)民間資金ノ動員ハ第一期ハ「プラン」ノ九二%ヲ實行シタルカ其

內最大項目タル國債收入ハ村落ニ於ケル拂込成績不良ニシテ「プラン」ノ八七%、貯金局預金高ハ「プラン」ノ六七、五%、消費組合ノ株金蓄積モ七三%ニシテ「トラクトルツエントル」ノ株金、農業貸下金ノ返納、農業組合ノ負債並ニ保險等尙不成績ナリ文化住宅稅ハ豫定以上ノ成績ヲ收メタルカ其收入ノ大部ハ村「ソウエト」、貯金局等下級機關ニ停滯シテ國家銀行ニ囘附セラレサルヲ以テ豫算ノ收入トナレル高ハ豫定ノ六〇%ナリ其他ニモ右同樣中間停滯ノ收入少ナカラス

△ 國家銀行金融利用ノ薄弱

第一期金融計畫ニ依レハ經濟機關ニ對スル貸出額ハ九億六千二百萬留增ノ豫定ナル處實際貸出高增加ハ二億四千五百萬留ニ止マレリ右

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

金融利用不充分ナルハ生産財政計畫、買付ノ不足、春期播種「カムペイン」ノ準備遅延、特約ノ遅滯等ニ依ルモノナリ計畫外ニ屬スル金融モ同樣ニ不充分ナリ其結果銀行ニ於ケル經濟機關ノ當坐勘定ノ延期及帳尻高ノ減少ヲ見タリ

國家銀行ハ經濟機關ノ舊債五億三百萬留ヲ取立テタルカ右ハ豫定額ヨリハ少額ナリ

「コルホズ」關係ノ長期信用モ同樣利用不足ナルカ右ハ銀行各支店ノ業務ニ彈力性ナク多數「ソフホズ」ニ「プラン」無ク多數地方ニ於ケル貸出主義ノ實施餘リニ嚴格ニシテ債務ヲ返濟セサル「コルホズ」ニ貸出ヲ停止セル等ノ諸原因ニ依ル「コルホズ」關係ノ長期信用貸出高ハ第一期末ニ三月下旬ナルカ八千八百萬留ニシテ期末右貸

出ヲ簡易ニスル方法ヲ講シタリ

農務部ハ第一期五千三百萬留ノ限度ニ對シ五千六百萬留ノ融通ヲ得タルカ各經濟機關中限外信用ヲ利用セル唯一ノモノナリ而シテ「ソフホズ」經營資金ニ對スル貸出限度ハ第一期一億五千三百萬留ナルニ實際ハ二億六百四十萬留ヲ貸出シタリ

△歳出

第一期ノ國家豫算ノ支出ハ多クハ豫算ヲ超過セルカ其重ナルモノ左ノ如シ（單位百萬留）

	プラン	實支出	對プラン%
一、工業全般	二、一六六、四	二、七一六、一	一二五、四
内 建設	一、一四五、〇	一、五五三、三	一三五、七

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

運轉費金	八四六、八	一、〇二六、〇	一二一、二
電化	一二六、〇	一四六、〇	一一五、九
內建設	一二三、七	一四三、七	一一六、二
三、農業	七六九、〇	八三四、九	一〇八、六
內建設	六一五、六	六二八、九	一〇二、二
運轉費金	一五三、四	二〇六、〇	一三四、五
供給部	七一五、〇	六三二、三	八八、四
內建設	一〇九、八	一〇九、三	九九、五
四、運輸	七三四、〇	八四一、二	一一四、六
內鐵道	四九四、〇	五七三、五	一一六、〇
四、社會文化施設	一二八、四	一五九、一	一二三、九

五、管理及調節	五〇、九	四九、六	九七、四
六、國債諸支拂	二二〇、〇	一九七、五	八九、八
六項計	四、〇六八、七	四、七九九、四	

建築ニ在テハ住宅建築費ハ第一期中年「プラン」ニ對シ昨年ハ一一、二%ナリシニ本年ハ一二、八%ヲ支出セリ建築ニ對スル金融ハ一、二月中不用ノ材料餘剩多ク建築費騰貴シ計畫外ノ事業起リ舊債ノ未返濟等ニ依リ大ニ緊迫セリ

輕工業ニ於ケル建設ハ三千八百五十萬留ノ「プラン」ニ對シ三千四百萬留ヲ費シタルガ之ハ自己ノ蓄積ヲ基礎トシテ事業ヲ行ヒタル爲メナリ

農業ノ運轉費金ノ支出ハ一部第二期分ヨリ之ヲナセル處右ハ「ソフ

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ホヾ」ノ用ニ供セルモノナリ

右ニ示シタル各項ノミニ付テ計算スルニ第一期歳入中取扱高税及運輸收入ハ豫定超過二億四千三百萬留ナルモ重工業ノ利益及行政管理費節約ニ於テ七千八百萬留、民間賛金動員ヲ年額四十八億九千萬留ノ四分ノ一トシテ其八%、九千八百萬留計一億七千六百萬留ノ收入不足ト他面七億二千萬留以上ノ豫算外支出トヲ差引スレハ第一期ニ於テ少ナクトモ六億留ノ支出超過アル次第ナリ尤モ本年度豫算ニハ内閣豫備金約八億四千萬留、國家剰餘豫備金五億留計十三億四千萬留ヲ計上シアリ之ヲ以テ右ノ缺損ヲ補充スルトシテモ今後ノ財政狀態改善セサルニ非サレハ到底缺損ヲ免レサルヘシ

口　第二期收納成績

第二期ノ財政ニ關シテハ第一期ノ如キ詳細ナル資料ヲ有セサルカ聯邦豫算ノ歳入ハ六十七億留ニシテ年「プラン」ノ二四、八%、前年ノ三十六億六百萬留（年「プラン」ノ二〇、五%）ニ比シ成績良好ナルカ七月十五日付第二期民間賛金ノ動員及取扱高税徴收成績ニ關スル財務部參與會ノ決定ニ依ルニ第二期取扱高税ハ第一期ノ收入超過ノ代リニ「プラン」ノ九四、四%ニシテ民間賛金ノ動員ハ九二、九%ニシテ其内譯左ノ如シ（「プラン」ニ對スル割合%）

	市	村落	計
民間賛金動員	九二、九	一〇二、一	七六、九

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

內國債收入	九四、四	七六、四
貯金局預金	六九、五	七七、二
消費組合	六九、一	八二、二
		五五、一
		五六、八

右ニ依リ本年上半期ノ歳入ヲ見ルニ取扱高稅ハ第二期ノ收入不足ハ第一期ノ過剩ト平均シテ大體豫定「プラン」ニ近ク民間資金ノ動員ハ兩期共約八%ノ不足アリ從來幣ノ豫定「プラン」ニ近キ成績ニ比シ惡化シ殊ニ村落ニ於テ更ニ不良トナレリト謂フヘシ而シテ工業ノ狀況ハ第一期ニ甚タシク劣リ取扱高稅サヘ豫定ニ達セサル有樣ニテ原價ノ低下ハ實現セラレス却テ向上シ居ルニ付此方面ノ收入モ第一期ニ及ハサルヘク支出ノ方面モ減少セサルヘシ

ハ 關稅ノ改正

四月十六日付內閣ノ決定ヲ以テ若干外國輸入品ノ關稅ヲ改正シ最少限及最大限ノ稅額ヲ定メタリ右ニ依リ重ナルモノヲ擧クレハ左ノ如シ

稅率第四條　果實、草ハ從來從價二〇〇%ノ處生果ハ一瓩十留

第一〇條　魚類ハ從來ノ從價一〇〇%ニ對シ一瓩二十留

第一一條　素麺類ハ從來ノ一瓩三留ニ對シ十留、「チーズ」及「マルガリン」ハ二十留

第一五條　煙草ハ從來ノ一瓩三十五留ヲ百留

第三七條　陶磁食器ハ一瓩三十留

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第九八條　脱脂綿ハ從來從價二〇%ノ處一瓩三十留

第一〇九條　靴下ハ從來一瓩百二十五留ノ處三百留

第一一〇條　衣服、食卓布等ハ從來ノ一瓩七十五留ニ對シ二百留
絹物ハ從來ノ一瓩二百留ニ對シ五百留

第一一三條　小間物、化粧品等ノ大部分ハ從來ノ一瓩百五十留ニ
對シ三百留

而シテ右最大限税率ハ普通輸入品ニ課セラルヽ趣ナリ

骨董品輸出税ハ五月十日付内閣決定ヲ以テ從來ノ三五%ヲ一〇〇%
ニ引上ケタリ

二、國債

イ　國債ト工業投資

六月初旬「タス」通信ニ依ルニ國債ノ使途ニ付テハ一九三一年國家
豫算總額二百二億五千萬留ノ内國債收入ハ十五億八千萬留卽チ七四
%ナルカ本年豫算ハ豫算額二百七十五億四千二百萬留ノ内國債收入
二十七億五千萬留ニシテ其增加ノ割合ハ國家豫算カ三四、七%增ナル
ニ對シ國債ハ七四%增ナリ

投資額ニ對スル國債收入ノ割合ハ左ノ如シ

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

投資額（十億留）	國債ノ割合	工業投資額	國債ノ%
一九三一年 一六	九、八%	八	二〇
一九三二年 二一	一三、〇	一〇	三三

右ニ依リ工業投資ハ漸次國債ニ依倚スルコト多クナレリ

ロ 第三回「五年計畫ヲ四年ニ」內國公債

六月八日付中央執行委員會及內閣ノ決定ヲ以テ本國債公募ニ付公布アリタルカ本國債ハ發行額三十二億留、十年据置後償還、一部ハ富籤付無利息、一部ハ年一割ノ利息付ナリ

右國債ノ收入金ハ中央ノミナラス聯邦共和國豫算、地方豫算及軍隊警察ノ經費及文化施設費ニ分配スルモノナルカ(一)聯邦共和國國家豫算移讓額ハ各國內ノ勞働者應募額ノ一五%トス(二)地方豫算移讓額ハ

都市村落ノ勞務者應募額ノ一〇%及其他ノ住民應募額ノ二五%トス村落ニ於ケル應募額ハ「ライオン」執行委員會ニ於テ「ライオン」ト村ニ分チ村ノ分ハ村內農民應募額ノ一五%以上トス(三)軍隊及警察員ノ應募額ノ一〇%ハ其經濟的文化的施設用トス

應募狀況

本公債ハ六月十日ヨリ募集ヲ初メタルカ事實上各工場機關ハ其會議ニ於テ各人勞銀一ケ月分以上ノ應募申込ヲナスコトニ決議シ尙市ノ如キ各戶ニ割當テ應募セシムルコト、スル等團體ノ力ヲ以テ殆ント强制的ニ募集シタル爲メ財務部ノ公表ニ依レハ初メ十日間ニ左ノ成績ヲ得タリ

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

	一九三一年		一九三二年	
	百萬留	對プラン%	百萬留	對プラン%
第一ノ五日間	三六九六	三〇九	九八九五	四一七
第二ノ五日間	二一五七	一八〇	五八二九	二四五
市部累計	五八五三	四八九	一五七二四	六六二
村落十日間	一七		六六一	八五
合計	五八七〇		一六三八五	

而シテ一ケ月經過セル七月十日迄ノ應募高左ノ如シ

	一九三一年		一九三二年	
	百萬留	對プラン%	百萬留	對プラン%
勞務者	一一二〇九	一〇二〇	一九四八六	八九四

其他市民	七六〇	七八二	一一九七	六一八
コルホズ員	七六九	一九〇	二六二二	五四六
個人農家	一	一	一五六	五三
村落計	七六九	一九〇	二七七八	三五八
計	一二七三八	七二四	二四六一	七四五

而シテ地方別ニスレハ好成績ノモノ七月十日迄ニ「レニングラド」州一〇〇二%、「モスクワ」州九五一%、「クリミヤ」八六五%、「ウラル」八一九%ノ首府及工場地方ニシテ中央及南部農業地方ハ中以下ニシテ總體ハ不良ニシテ「ブリヤト、モンゴル」一八一%、「キルギジヤ」二八二%、「タジクスタン」二四一%等ナリ

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ハ　昨年ノ國債應募成績

昨年ノ國債ハ發行額十六億留ノ處最近ノ調査ニ依レハ應募申込額二十億四千百萬留内市部十五億二千六百九十萬留、村落四億八千六百九十萬留ニシテ其應募者ノ社會別ニ依レハ市部ニ於テハ勞務者ハ「ブラン」ノ一二八、六％、其他ノ市民一一七、八％、平均一二七、七％ナルカ村落ハ九八、五％内「コルホズ」員七六、二％、個人農家一一二、七％ナリ右村落ノ應募額ハ一九三〇年ノ「五年計畫ヲ四年ニ」公債ノ二億八千七百萬留ニ比スレハ七割ノ増加ナルカ一般ニ村落ノ國債應募ノ割合ハ減シツヽアリ即チ一九三〇年及三一年兩年ノ應募者社會別ニ依ル百分比ヲ示セハ左ノ如シ

	一九三〇年	一九三一年
勞務者	六七、五	七〇、一
其他ノ市住民		
コルホズ員	五、六	五、七
個人農家	五五	一五、三
計	二一、三	八、九
個人農家ノ割合カ減少セルハ其「コルホズ」ニ加入セルモノアリ其農家數ノ減少ニ因ルモノナリ	一〇〇、〇	一〇〇、〇

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

弐 通貨

國家銀行發行銀行券ノ流通額ハ本年一月ヨリ少シク收縮シ三月一日現在二十六億三千五百萬留トナリシカ同月十六日現在ニテハ二百五十萬留餘ヲ增加シ爾來增加ノ一路ヲ辿リ穀物賈付期ノ近付タニ從ヒ更ニ膨脹セリ第二期各月一日現在ノ流通高左ノ如シ（單位百萬留）

四月	一九三二年	一九三一年
五月	二、六七五、七	二、一九三、八
	二、七三九、七	二、二四五、五
六月	二、七六六、八	▲二、二五八、四

在オデッサ日本領事館

七月	二、九二五、四	二、二三四、四

▲印ハ六月十五日現在額

尙財務部發行ノ國庫證券及銀銅貨ノ各月一日現在流通額左ノ如シ（單位百萬留）

●國庫證券		
四月	一九三二年	一九三一年
	二、四五四、七	〃〃
六月	二、六八七、八	〃〃
七月	二、九二二、〇	二、〇七五、八

	銀白銅貨		銅貨		黃銅貨	
●銀銅貨						
四月	二七七五	三二年	三一年	三二年	三一年	三二年	三一年
	〃〃〃	三一年	三二年	七九	〃〃	五七一	〃〃〃

在オデッサ日本領事館

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

六月	二八六、一	、、、、	七七	、、
七月	二八九、五	二五二、八	七七	八、五

三七三	、、、	二八〇
三八、四		

右ノ如ク國庫證券ハ六月中大增發ニテ七月一日現在ニ於テハ昨年同期ニ比シ約八億五千萬留、年初ニ比シ三億四千五百萬留卽チ一三%餘ヲ增發セリ

補助貨ニ於テハ七月一日現在ニテ昨年同期ニ比シ四千五百萬留、本年一月一日現在ニ比シ二千四百萬留卽チ八%弱ノ增加ナルカ貨幣ノ質ハ漸次惡化シ銅貨ハ逐月漸減シ其代リニ量目質共劣弱ノ黃銅貨トナリ銀貨ハ白銅貨トナリツヽアリテ貨幣ノ品位益々下落シツヽアリ通貨ハ六月ヨリ急ニ膨脹シタルモ右ハ主トシテ穀物買付準備及農村需要ニ仕向ケラレ都市ニハ缺乏シ勞働者及勤務者ノ勞銀ハ六月下旬

ヨリ今日迄支拂遲滯又ハ不能アル爲メ更ニ缺乏ノ度ヲ强メツヽアリ然レ共農產物及商品ノ出廻少ナキ爲メ物價ハ昂騰ヲ續ケ居レリ

四、長期投資特殊銀行ノ設置

昨年ノ金融改正ノ結果並ニ建設ニ對スル「ファイナンス」ノ必要上國家銀行ハ主トシテ短期信用ノ機關トシ長期信用ノ機關ノ改正ヲ必要トシ五月五日付中央執行委員會及內閣ノ決定ヲ以テ長期投資特殊銀行組織方ニ關シ公布アリタリ

右ニ依レハ右特殊銀行ハ左ノ四ナリ

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一、「プロムバンタ」　工業及電氣業長期信用銀行ヲ改組シ重工業、輕工業、林業、供給、外國貿易各人民委員部及賃付委員會所管ノ國營企業及建築機關ノ建設ニ對スル無償投資、長期貸付ヲ集中ス

二、「セリホズバンク」　社會化農業信用銀行、國營農業、「トラクトルツエントル」及「コルホズ」系ノ各種企業及機關ニ對スル無償投資及長期貸付ヲナス

三、「フセコバンク」　全「ロシヤ、コオペラチーフ」銀行ヲ改組セル「コオペラチヤ」ノ建設ヲ「フアイナンス」スル銀行ニシテ右「フアイナンス」ハ長期貸付ニ依ル又從來ノ營業ヲモ併セ行フ

四、「ツエコムバンク」　公共及住宅建築「フアイナンス」ノ銀行ニシテ住宅、公共及文化的建築並ニ新市町建設ニ對シ無償投資及長期貸付ヲナス

右銀行條例ハ財務部ニ於テ關係各機關ト協議ノ上一ケ月以内ニ草案ヲ勞働國防會議ニ提出シ其後一ケ月以内ニ國家銀行ト協議ノ上内閣ニ提出シテ認可ヲ經ヘキコト、ナリ居レリ

（終）

E-0286
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp